

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No.78



2018 年 6 月

NPO 法人 日本バスケットボール振興会

目 次

○ 理事会と定期総会を開催	2
○ 目黒区立中央体育館主催クリニックへの協力・・・総務部・普及部	17
小学生対応クリニックへ講師派遣	
○ 人物抄 山本 治さん	19
○ 会員だより	
アメリカのバスケット学生界を語る・・・一杉 真城	21
―― 加藤稔樹氏のレポート紹介 ――	
○ 第11回シニア交歓大会 in YOYOGI	25
○ Bリーグ 2017～18 シーズン結果	27
○ 男子日本代表にのぞむ	34
―― ホームゲームでのタイペイ戦を振り返り ――	
○ 「AKATSUKI FIVE」男子日本代表WCへの道のり	36
○ Wリーグ 2017～18 シーズン結果	38
○ 「AKATSUKI FIVE」女子日本代表WCへの道のり	41
FIBA ワールドカップ 2018 の代表候補選手と予選リーグ日程	
○ 振興会が企業価値認定証を授与される	44
○ 訃報・追悼文	45
○ 事務局だより	47
○ プラザこぼればなし	48

理事会と定期総会を開催

[編集部]

平成29年度事業活動報告と収支決算、平成30年度事業計画案と予算案、及び役員改選について、定例の理事会と総会が開催され、いずれの議案についても原案通りに可決、承認された。

[理事会]

開催日時 平成30年4月10日（火） 16～17時30分
開催場所 東京都千代田区神田神保町1-40 豊明ビル3F
NPO法人日本バスケットボール振興会事務所
出席者 （敬称略五十音順）
会長 佐室有志
副会長 大野龍一 小澤正博
理事長 渡辺 誠
以下、副理事長を含む理事10名、監事1名

[総会]

開催日時 平成30年5月17日（木） 15時～16時20分
開催場所 東京都千代田区神田駿河台 池坊東京会館
出席者 会長、副会長、理事長、副理事長、理事、監事、会員
会員総数185名に対し、出席32名、委任状提出82名で会員数の過半数により総会は成立 議事録署名者 池田理、杉山絹枝の2名

[佐室会長総会挨拶]



本日は、総会へのご出席有難うございます。平成29年度事業報告と決算、平成30年度計画と予算、役員改選など議題が多々ありますが、熱心なご審議をお願いいたします。

ご承知のようにBリーグは、これからプレーオフに入り、最週ステージとなりました。全体的に良くなっていると思いますが、男子バスケットボールにおける課題も多々あるようです。

女子は、既にWリーグを終えて日本代表の強化に入っているようですが、2020東京オリンピックへ向けて楽

しみな存在です。

振興会は会員数が減ってきて困難な時期ですが、皆様のご協力で乗り越えていきたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

[議 事] 上記両会議とも共通

第1号議案 平成29年度事業活動報告 渡辺理事長

平成29年度の事業活動は資料の通りですが、若干説明を加えさせていただきます。

1. 日本バスケットボール協会への協力と提言 —— 日本バスケットボール協会の活動、事業への協力
2. バスケットボール競技団体への協力・支援 —— シニア、家庭婦人、障害者、ミニ、中体連など
3. バスケットボールの広報・啓発活動の推進 —— バスケットボールの日の活動支援、日本バスケットボール学会との連携など
4. 日本のバスケットボールの歴史の調査研究と資料の収集
5. 組織の充実と財政の確立 —— 会員の増強、助成事業などの見直しを実行し、財政の健全化を図る
6. 会員相互の交流を図る

日本協会は、Bリーグ、Wリーグを頂点とする競技のピラミッド構造確立のため、社会人カテゴリーである家庭婦人連盟、実業団連盟、クラブ連盟、教員連盟を統一して社会人連盟を設立しました。

ピラミッド型の組織運営の整備、全国どこでも年間を通じてバスケットボールができる環境の整備、生涯スポーツとしてバスケットボールができる環境の整備など、三つを柱とした競技環境の整備を目的に設立されたものです。

これからは、更にピラミッド型の競技運営が進められることになると考えられます。同時に各個人に日本協会への競技者登録が必要になってくるなど、いろいろな形で活動の制限が進められることになるかもしれません。

私たちが取り組んでいる、生涯スポーツとしてのシニアバスケットボールが今後どのような方向となるのか、日本協会の事務局と話し合いを行いました。

また、振興会の活動についても日本協会の役員と意見交換を行ったところです。

各部の活動実績は下記の通りですが、主な活動につき補足説明をいたします。

総務部は新たな展開として「都道府県別バスケットボールミュージアム」設立の作業を開始しました。また、振興会が企業価値協会から、スポーツ界としては珍しい「企業価値認定」をいただきました。

広報部として取り組んでいるメルマガによる情報発信を充実させ、徐々にではありますがその効果が上がっていると考えています。

歴史部は、「ボールの歴史」をまとめて、プラザ77号に掲載しました。歴史的資料の収集と保管は継続して実施しました。東京大学OB会から寄贈された創刊号からの「月刊バスケットボール」誌300冊以上を、流通経済大学の図書室へ届け、保管を依頼しました。

編集部では、年間4回バスケットボールプラザを発行しましたが、日本協会との連携が思わしくなく、次年度には改善したいと思います。また、広く会員に情報を求め広報誌としての成果を求めたいと努力しています。



普及部は、シニアバスケットボール、障害者バスケットボールなどの大会支援、バスケットボールの日記念イベントへの支援、シニア交歓大会の開催など計画通り実施しました。結城講師、桑田講師による、京都市、世田谷区、目黒区の三か所で開催の小中学生バスケットボールクリニックを開催しました。

家庭婦人連盟に対して、昨年7月に広島市で開催の全国大会に大正製薬の女性向けドリンク「アルフェ」を800本提供し、埼玉県越谷市で開催されたシニア大会「八幡カップ」へ青森の天然水を1,000本提供しました。

事務局関係では、秋季講演会にWJBLの斎藤会長を講師として招聘、「Wリーグの現状と2020東京に向けて」の演題で講演いただくとともに、交流会にもご出席いただきました。事務運営については計画通りでしたが、結果的に会費の未納者は増加しました。

その他の事柄としましては、「スペシャルオリンピクス東京」の総会に出席して感謝状をいただき、渋谷センター街の催事に参加してセンター街会員の皆さんと交流、環境庁が推進する「熱中症予防」の活動に毎年協力することで助成を受けたことなどがあります。

各部別活動実績

各部	事業内容	事業目標	事業計画	事業実績
総務部	振興会活動の発展支援	1) JBA事業活動への協力と提言	・ JBA、Bリーグ等との関係の維持強化	・ Bリーグ渋谷SRが行っているクリニック取材は未着手
		2) メルマガの内容充実と会員の増強キャンペーンの実施	・ 広報部、編集部との協力の下、3ヶ月毎に発信 ・ 全国シニア交歓大会での積極的な勧誘他	・ 広報部の協力でタイムリーに発信。会員増については退会者をカバーするに至っていないが徐々に成果は上がっている
		3) 会長、理事長の特命事項	・ バスケットボールの新たな展開への課題の対応	・ 都道府県別ミュージアム作業開始 ・ 企業価値認定受賞
広報部	振興会の周知による会員増強施策	1) 本会の活動を多くのバスケットボール愛好者に正しく理解して頂く	・ 公式ホームページの下記項目の更新 ・ 国際大会、全国大会のスケジュールをカレンダーに掲載 ・ 振興会の活動予定、活動内容の告知	・ 計画通り実施
		2) 本会の会員であることのメリットをアピールする	・ 総務部と連携してメルマガジンの会員を増やして発信 ・ プラザ発行後すぐにメルマガを配信	・ 従来のプラザ案内に加え、日本代表やBリーグ、Wリーグの情報も配信

		3) J B Aと連携しバスケットボール資料のデータベースを作成	バスケットボール資料のデータベース作成	振興会会員だった数名の故人から資料収集
		4) 若年層のバスケットボール愛好者にも訴求するような広報の内容・手法を検討する	- 事業目標に向けた具体的検討 - 入会促進リーフレットとカードのリニューアル	本年度は計画のみ
		5) その他	- 家庭婦人大会プログラムへ広告掲載 - 月刊バスケットボール誌を希望会員へ配布	計画通り実施
歴史部	の技にバスケットボール競技に関する歴史情報収集と周知	1) 歴史的資料の収集・保管を継続する	継続実施	広報3)に同じ
		2) 新企画のテーマとして競技施設の歴史的検討を取り上げる	ボールの歴史をまとめプラザに掲載	プラザ77号にまとめを掲載
編集部	会報「バスケットボールプラザ」の編集と発行	1) 年間4回の定期発行 5月、8月、11月、及び翌年2月	掲載記事充実のため、各号3回以上の編集会議を開催	5月が6月に遅れ、以外は予定通り
		2) 関連する協会・連盟等の取材記事充実	J B Aをはじめとするバスケットボール関連各種団体と連携を密にして積極的に取材	J B Aとの連携不十分、次年度改善を目指す
		3) 掲載記事内容の拡張と充実	- 振興会内部の各部門と連携し、案件を授受して特集記事に作成し編集（掲載記事の積極的な収集） - 振興会会員に参加して頂くバスケットボール関連記事の発掘（情報提供、問題提起、建設的意見交換、自身の奮闘記事などの提供呼びかけ） - その他会報に適切な記事の発掘	記事の発掘努力、成果は十分といえず、更に積極的に進める
		4) 有料掲載広告の獲得	- 広く会員にお願いして種々の業種・団体と交渉 - 前年度実績以上の獲得を図る	交渉を進めるが目標に未達

普及部	バスケットボール競技の普及・支援	1) 全国シニア交歓大会の開催とシニアバスケットボール活動の助成	- 代々木第二体育館で全国シニア交歓大会の開催（5月15日・16日）と助成 - 全国ゴールデンシニア交歓大会横浜カップ大会の助成	- 計画通り実施 - 計画通り実施
		2) 障害者バスケットボールの活動支援	障害者バスケットボールの活動支援	地区大会（3月4日）審判派遣2名
		3) 中学生バスケットボールクリニック開催への協力	- 中学生初心者向けクリニックに協力（世田谷区、京都市）、「シュートを上手になろう」とテーマを絞って開催 - 目黒区体育館主催のクリニックへ協力	- 京都市（5月14日）結城講師、世田谷区（5月25日）振り返り総括、桑田講師（7月28日） - 目黒区（3月21日）結城講師
		4) 「12月21日はバスケットボールの日」記念行事に協力	代々木青少年スポーツセンターでの開催に協力	計画通り実施
事務局	振興会活動の運営支援	1) 通常総会 於：池坊東京会館	29年度活動報告/同左決算報告 30年度活動計画/同左予算案 - 春季交流会	5月25日池坊東京会館で開催 - 交流会に26名参加
		2) 秋季講演会 於：池坊東京会館	29年11月講演会及び秋季交流会	11月6日WJBL斉藤会長を迎え、池坊東京会館にて講演会実施、テーマは「Wリーグの現状と2020東京に向けて」 - 交流会は32名参加
		3) 理事会	原則、年2回開催（於：振興会事務所）	4月と12月に実施
		4) 正副部長会	原則、3ヶ月に1回開催（於：振興会事務所）	年4回実施
	の事務効率化営	5) 会員の名簿管理 会費の管理	会員の名簿管理、会費の管理と併せて会費の徴収を迅速に実施	計画通り実施するも会費の未納は増加

平成29年度会員動向

	平成28年度末 (H29.3.31)	平成29年度末 (H30.3.31)	増減	備 考
個人会員	189名	176名	▲13	新規会員 8名 退会者 21名
法人会員	11社	9社	▲2社	新規会員 1社 退会会員 3社

退会者のうち逝去者9名



第2号議案 平成29年度決算報告 佐々木事務局長

収支決算書の下の方、No.3. 経常収支差額がマイナス95,380円となり、今期の決算は赤字となりました。

この原因は、収入の大幅減によるものです。特に会費収入については、予算比マイナス325,000円となっておりますが、13名の会員減と法人会員2社減が響いています。プラザへの広告料金減少や寄付金の減少も同様に収入減の要因となっております。

支出については、事業費は節減に努めて予算を下回り、管理費はほぼ予算通りでしたが、収入の大幅減少をカバーするには至りませんでした。

時期繰越金が若干ありますが、会員獲得に努め会費収入の増を図ることが、喫緊の課題といえましょう。

2. 平成29年度特定非営利活動に係る事業会計収支決算書

平成29年4月1日～平成30年3月31日

(単位:円)

科 目	29年度予算	29年度決算	増 減	備 考
I 経常収支の部				
1. 経 常 収 入				
(1)会費収入				
正会員会費	1,700,000	1,475,000	▲ 225,000	
賛助会員会費	550,000	450,000	▲ 100,000	
会費収入計	2,250,000	1,925,000	▲ 325,000	
(2)事業収入				
広告掲載料	170,000	160,000	▲ 10,000	
月刊BB負担金	368,000	322,000	▲ 46,000	
各種販売益	0	5,700	5,700	
交流会・講演会	10,000	10,000	0	
シニア大会	325,000	343,568	18,568	
そ の 他	0	5,000	5,000	
事業収入計	873,000	846,268	▲ 26,732	
(3)寄 付 金	182,000	134,000	▲ 48,000	
(4)雑 収 入	90,000	75,224	▲ 14,776	
(5)受取利息	0	5	5	
経常収入計	3,395,000	2,980,497	▲ 414,503	
2. 経 常 支 出				
(1)事 業 費				
広報・啓発活動費	1,220,000	1,045,296	▲ 174,704	
普及支援活動費	545,000	445,776	▲ 99,224	
協力及び提言活動費	0	0	0	
調査・研究活動費	50,000	3,499	▲ 46,501	
その他活動費	50,000	90,000	40,000	
事業費計	1,865,000	1,584,571	▲ 280,429	
(2)管理費				
会議費	100,000	108,935	8,935	
通信費	150,000	130,103	▲ 19,897	
水道光熱費	60,000	53,964	▲ 6,036	
事務所借用費	720,000	709,464	▲ 10,536	
租税公課	0	600	600	
雑 費	0	0	0	
その他事務所運営費	490,000	488,240	▲ 1,760	
管理費計	1,520,000	1,491,306	▲ 28,694	
経常支出計	3,385,000	3,075,877	▲ 309,123	
3. 経常収支差額	10,000	▲ 95,380	▲ 105,380	
II その他資金収支の部				
1. その他資金収入				
その他資金収入計	0	0	0	
2. その他資金支出				
その他資金支出計	0	0	0	
当期収支差額	10,000	▲ 95,380	-	
前期繰越収支差額	891,555	891,555	0	
次期繰越収支差額	901,555	796,175	▲ 105,380	

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

NPO法人 日本バスケットボール振興会

[税込] (単位: 円)

2018年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		流動負債 計	0
現 金	42,251	負債の部合計	0
普通 預金	413,410	正 味 財 産 の 部	
三菱東京UFJ銀行	(261,159)	【正味財産】	
みずほ銀行	(152,251)	正味 財産	796,175
振替 貯金	85,953	(うち当期正味財産増加額)	△95,380
ゆうちょ銀行	(85,953)	正味財産 計	796,175
現金・預金 計	541,614	正味財産の部合計	796,175
(その他流動資産)			
前払 費用	54,195		
その他流動資産 計	54,195		
流動資産合計	595,809		
【固定資産】			
(投資その他の資産)			
長期 預金	200,366		
三菱東京UFJ銀行	(200,366)		
投資その他の資産 計	200,366		
固定資産合計	200,366		
資産の部合計	796,175	負債・正味財産の部合計	796,175

3. 会計監査報告書

特定非営利活動法人 日本バスケットボール振興会の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの会計処理について監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

平成30年4月10日

監 事 黒川敏雄

監 事 清水英邦

上記第1号から第3号、いずれの議案も拍手によって承認された。

第4号議案 平成30年度事業活動計画(案)

渡辺理事長

平成30年度事業活動計画について、以下のような基本方針が提案され、続いて各部長から具体的な事業計画が提案された。

バスケットボール協会への協力と提案については基本的にこれまでと変わりません。振興会の活動内容が日本のバスケットボールの振興につながると考えています。バスケットボール界において紙媒体としてのプラザの発行は非常に貴重であると評価されていると自負しています。また、今実行しなくては永久に失われてしまう、歴史的資料の収集・保存などは、振興会でないとできない大きな価値がある活動です。強化にはつながりませんが、バスケットボールの普及しんこうに繋がる助成・支援などは継続して実施することでバスケットボール界に貢献していると考えます。

会員相互の交流と振興会の活動の価値を高めることが、振興会の活動の広がりにつながると思っています。各部会の更なる人的充実も図ることも必要です。

各部会活動の内容を明確にすることにより、事務局の効率的運営を図り、経費の節減に努めるとともに、個人、法人、広告にどの収入増を図ることを検討します。

1. 日本バスケットボール協会への協力と提言 —— 日本バスケットボール協会の活動、事業への協力
2. バスケットボール競技団体への協力・支援 —— シニア、障害者、ミニ、中体連など
3. バスケットボールの広報・啓発活動の推進 —— バスケットボールの日の活動支援、日本バスケットボール学会との連携など
4. 日本のバスケットボールの歴史の調査研究と資料の収集
5. 組織の充実と財政の確立 —— 会員の増強、助成事業などの見直しを実行し、財政の健全化を図る
6. 会員相互の交流を図る

各部別活動計画（案）

各部	事業内容	事業目標	30年度 事業計画
総務部	振興会活動の発展	1) JBA事業活動への協力と提言	・ JBA、Bリーグ、Wリーグ等との関係の維持・強化
		2) メルマガの内容充実と会員の増強キャンペーンの実施	・ 広報部、編集部との協力の下、3ヶ月毎に発行 ・ 全国シニア交歓大会での積極的な勧誘他
		3) 会長、理事長の特命事項	・ バスケットボールの新たな展開への課題の対応、特に都道府県別ミュージアムの創設に注力
広報部	振興会活動の周知策	1) 本会の活動を多くのバスケットボール愛好者に正しく理解して頂く	・ 公式ホームページの下記項目の更新 ・ 国際大会、全国大会のスケジュールをカレンダーに掲載 ・ 振興会の活動予定、活動内容の告知
		2) 本会の会員であることのメリットをアピールする	・ 総務部と連携してメルマガジンの会員を増やして発信 ・ プラザ発行後すぐにメルマガを配信

		3) JBAと連携しバスケットボール資料のデータベースを作成	・バスケットボール資料のデータベース作成
		4) 若年層のバスケットボール愛好者にも訴求するような広報の内容・手法を検討する	・事業目標に向けた具体的検討 ・入会促進リーフレットとカードのリニューアル
		5) その他	・月刊バスケットボール誌を希望会員へ配布
歴史部	歴史競技情報に関する収集	1) 歴史的資料の収集・保管を継続する	・継続実施
		2) 新企画のテーマとして競技施設の歴史的検討を取り上げる	・モントリオール五輪の男子チームの座談会企画
編集部	集会と発行「バスケットボールプラザ」の編集	1) 年間4回の定期発行 四半期ごとに発行する	・掲載記事充実のため、編集会議を複数回開催 ・紙面体裁の整備を図る
		2) 関連する協会・連盟等の取材記事充実	・JBAをはじめとするバスケットボール関連各種団体と連携を密にして積極的に取材
		3) 掲載記事内容の拡張と充実	・振興会内部の各部門と連携し、案件を授受して特集記事に作成し編集（掲載記事の積極的な収集） ・振興会会員に参加して頂くバスケットボール関連記事の発掘（情報提供、問題提起、建設的意見交換、自身の奮闘記事などの提供呼びかけ） ・その他会報に適切な記事の発掘
		4) 有料掲載広告の獲得	・広く会員にお願いして種々の業種・団体と交渉 ・前年度実績以上の獲得を図る
普及部	バスケットボール競技の普及・支援	1) シニア交歓大会の開催とシニアバスケットボール活動の助成	・代々木青少年スポーツセンターでシニア交歓大会in YOYOGIの開催（5月24日・25日）と助成 ・全国ゴールデンシニア交歓大会横浜カップ大会の助成
		2) 障害者バスケットボールの活動支援	・障害者バスケットボールの活動支援
		3) 中学生バスケットボールクリニック開催への協力	・中学生バスケットボール（初心者向け）クリニックに協力（世田谷区、京都市）、 「シュートを上手になろう」とテーマを絞って開催 ・目黒区体育館主催のクリニックへ協力
		4) 「12月21日はバスケットボールの日」記念行事に協力	・代々木青少年スポーツセンターでの開催に協力

事務局	振興会活動の運営支援	1) 通常総会 (於:池坊東京会館)	・ 29年度活動報告/同左決算報告 ・ 30年度活動計画/同左予算案 ・ 春季交流会
		2) 秋季講演会 (於:池坊東京会館)	・ 29年11月講演会及び秋季交流会
		3) 理事会	・ 原則、年2回開催 (於:振興会事務所) (於:振興会事務所)
		4) 正副部長会	・ 原則、3ヶ月に1回開催 (於:振興会事務所)
	の事務効率運 営化	5) 会員の名簿管理 会費の管理	・ 会員の名簿管理、会費の管理と併せて会費の徴収を迅速に実施



第5号議案 平成30年度事業会計収支予算(案) 佐々木事務局長

平成29年度決算を踏まえて30年度予算案を作成しました。収入予算は昨年と同水準、支出については管理費のうち、事務所借用費につき同借のP F Jさんをお願いして、年間で6万円の減額としました。

その他事務所運営費も9万円の減額をし、管理費の減額を図ります。



5. 平成30年度特定非営利活動に係る事業会計収支予算書(案)

平成30年4月1日～平成31年3月31日

(単位:円)

科 目	29年度予算	29年度実績	30年度予算	対29年度予算比	対29年度実績比	備 考
I 経常収支の部						
1. 経 常 収 入						
(1)会費収入						
正会員会費	1,700,000	1,475,000	1,600,000	▲ 100,000	125,000	
賛助会員会費	550,000	450,000	450,000	▲ 100,000	0	
会費収入計	2,250,000	1,925,000	2,050,000	▲ 200,000	125,000	
(2)事業収入					0	
広告掲載料	170,000	160,000	170,000	0	10,000	
月刊BB負担金	368,000	322,000	344,000	▲ 24,000	22,000	
各種販売益	0	5,700	0	0	▲ 5,700	
交流会・講演会	10,000	10,000	10,000	0	0	
シニア大会	325,000	343,568	325,000	0	▲ 18,568	
そ の 他	0	5,000	0	0	▲ 5,000	
事業収入計	873,000	846,268	849,000	▲ 24,000	2,732	
(3)寄 付 金	182,000	134,000	134,000	▲ 48,000	0	
(4)雑 収 入	90,000	75,224	90,000	0	14,776	
(5)受取利息	0	5	0	0	▲ 5	
経常収入計	3,395,000	2,980,497	3,123,000	▲ 272,000	142,503	
2. 経 常 支 出					0	
(1)事 業 費					0	
広報・啓発活動費	1,220,000	1,045,296	1,107,000	▲ 113,000	61,704	
普及支援活動費	545,000	445,776	390,000	▲ 155,000	▲ 55,776	
協力及び提言活動費	0	0	0	0	0	
調査・研究活動費	50,000	3,499	50,000	0	46,501	
その他活動費	50,000	90,000	50,000	0	▲ 40,000	
事業費計	1,865,000	1,584,571	1,597,000	▲ 268,000	12,429	
(2)管理費					0	
会議費	100,000	108,935	100,000	0	▲ 8,935	
通信費	150,000	130,103	195,000	45,000	64,897	
水道光熱費	60,000	53,964	60,000	0	6,036	
事務所借用費	720,000	709,464	660,000	▲ 60,000	▲ 49,464	
租税公課	0	600	0	0	▲ 600	
雑 費	0	0	0	0	0	
その他事務所運営費	490,000	488,240	400,000	▲ 90,000	▲ 88,240	
管理費計	1,520,000	1,491,306	1,415,000	▲ 105,000	▲ 76,306	
経常支出計	3,385,000	3,075,877	3,012,000	▲ 373,000	▲ 63,877	
3. 経常収支差額	10,000	▲ 95,380	111,000	101,000	206,380	
II その他資金収支の部					0	
1. その他資金収入					0	
その他資金収入計	0	0	0	0	0	
2. その他資金支出					0	
その他資金支出計	0	0	0	0	0	
当期収支差額	10,000	▲ 95,380	111,000	101,000	206,380	
前期繰越収支差額	891,555	891,555	796,175	▲ 95,380	▲ 95,380	
次期繰越収支差額	901,555	796,175	907,175	5,620	111,000	

上記第4号及び第5号、いずれの議案も拍手によって承認された。

第6号議案 平成30・31年度役員の選出 渡辺理事長

平成30・31年度役員について下記の通り提案します。

役 職	氏 名		役 職	氏 名
会 長	大野 龍一		顧 問	愛知 和男
副会長	小澤 正博			麻生 太郎
	従野 明宏			小笠原 義昭
理事長	渡辺 誠			笹岡 太一
副理事長	蒲田 尚史			佐室 有志
	上谷 富彦			関口 莊次
	佐々木 政治			手嶋 昇
	杉山 絹枝			水野 明人
理 事	池田 理	新任		
	鹿子木 雅	新任		
	草階 勇人			
	榊原 みどり			
	坂本 博			
	佐藤 精孝			
	篠原 正邦			
	渋谷 美由紀			
	羽佐田 恭正			
	深尾 秀次			
	諸山 文彦			
	結城 昭二			
監 事	黒川 敏雄			
	都崎 修男	新任		



意見を述べる笹岡氏

上記第5号議案は拍手をもって採択された。

議事終了後のフリー討議で、概略以下の意見が提案された。

質疑応答

- <意見> 29年度の決算を見ると収入の大幅減によって、事業費が減額された。会員が減っていることが原因だが、このまま推移すると相当苦しい状況に陥るのではなかろうか。皆で努力して会員増を強力に進めるべきだと思います。
- <回答> ご指摘の通りですが、今のところシニア大会以外では会員増に繋がる要因がないのが現状です。振興会の活動を地道に続けていくことも必要と考えます。社会人連盟との連携も視野に入れて人的交流を図り、会員増に努力します。
- <意見> 賛助会員の広告をプラザに掲載して、宣伝してあげてはどうですか。
- <回答> 広告主を含め拡大に向けて検討します。
- <意見> 地方では、プラザに掲載されるだけで賛助会員となる可能性がありますので、そのあたりを留意するとよい結果が得られるのではないかと思います。
- <回答> プラザの活用については、今後十分検討していきます。

今期を持って退任された 佐室有志 前会長挨拶



立夏の候、皆さまお元気にてご活躍のことと存じます。日頃よりバスケットボール振興会の諸活動に対し、ご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

この度、本年の総会をもちまして、日本バスケットボール振興会会長を退任いたし、後任は副会長の大野龍一氏にご就任いただくことになりました。

平成24年、会長就任以来、本日迄6年間の長きにわたり皆さまのご支援ご指導により、大役を務めさせていただき誠に有難うございました。

日本のバスケットボール界も多くの課題を抱えていますが、トップリーグのBリーグも、クラブ運営や選手の実力、観客動員など少しずつ成長していると思います。

私共、振興会も役員の皆さま、会員の皆さまの熱心なご活動により、日本バスケットボール協会、他の関係団体との連携を深めるとともに、日本バスケットボール界の振興を深めるため下記のような活動を積極的に展開してまいりました。

1. 機関紙「バスケットボールプラザ」の発行
2. 交流会、講演会の開催
3. 「ママさん」、「シニア」、「中学生」等のバスケットボールに対する助成、支援
4. 日本のバスケットボールの歴史的資料、映像などの整理保管
5. 過去のオリンピック出場の歴史的検証

今後ともよろしくご指導ご協力の程、お願い申し上げる次第であります。

皆さまご承知の通り、次期会長の大野氏は人格円満、バスケットボールに対する情熱、知識、ご経験の大変深い方であり、次期会長に就任いただき嬉しい限りです。

是非とも皆さまのご指導、ご厚情を心よりお願い申し上げます。

最後になりましたが、日本のバスケットボール界及び振興会の発展を心よりご期待申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。長い間有難うございました。

今期就任された 大野龍一 新会長挨拶



この度、会長に指名され就任いたしました。伝統ある日本バスケットボール振興会で、佐室前会長の後任ということで責任の重さを自覚しております。

幸い、当会役員の皆さまは気鋭の実力者揃いです。前任の佐室様には顧問として引き続きご指導ご協力を頂くことになりました。

振興会が環境の変化に対応し、一層の充実、発展を達成できるよう努力いたします。さて、Bリーグは発足後も順調に推移して素晴らしく、Wリーグも先般のリオ・オリンピックにおける活躍の後、様々な工夫でリーグ活性化が図られています。いずれも2020年に向けて大いに期待されるところです。

ところで私のバスケットとの関わり合いは、小学4年生からで当時の校長先生の指導によるチーム作りからずっと続いています。学生時代（関東学生旧リーグ2部）と関東実業団中位グループでプレー、女子日本リーグで2部昇格のための支援などです。振興会にも会員として割と長い間所属しています。

50年前転勤先のアメリカで見たプロリーグは、大変刺激的でした。選手のレベルは勿論ですが、大勢の観衆と会場の熱気に感動し、羨ましく思いました。

今や、日本の男女トップリーグでの活躍、発展が日本全体各層のレベルアップと活性化に着実に結びつき、今後も更なるファンの増強にもつながるものと楽しみです。

振興会としてはJBAの事業活動への協力と提言、そしてシニア競技の各種支援等に努めてまいります。是非とも皆さまから忌憚のないご意見をお寄せいただきたく、引き続きご支援ご協力の程、心よりお願い申し上げます。

交流会

総会終了後開催された交流会には、かつて振興会を支えた役員や、遠く岩手県から油井氏も参加、和やかなひと時が流れた。



目黒区立中央体育館主催クリニックへの協力

小学生対応クリニックへ講師派遣

[総務部・普及部]

平成30年3月21日、東京都目黒区立中央体育館主催のバスケットボールクリニックに、講師として振興会から結城昭二理事を派遣し協力したので報告する。

区立中央体育館主催による「小中学生初心者向けクリニック」の企画としては今回が5回目であるが、今回、体育館からの募集に応じたのは区内の小学生3年生から6年生までの64名であった。

テーマは昨年に引き続き「シュートを上手になろう」である。

冒頭、結城講師から、プレーに対する基本的な考え方として「早さより正確さが大切である」との説明があった。次に、「見ること」と「瞬時に動くこと」を大事なポイントとして挙げ、前者に関し「視線はリングの高さ、自分以外の9人を見ること」、後者に関し「8方向を意識すること」そして共通項として「バスケットボールスタンス」の重要性につき、説明がなされた。



結城講師によるオリエンテーション

次に具体的なドリルとして、ボールを保持してのランニング、ボールハンドリング、ドリブルを行った。特にドリブルでは、ボールを膝より下で指先によって強くつくこと、膝を使い、リズムを取り、そして足の拇指球に体重を乗せるイメージを持つこと、これらが結果としてうまいシュートにも繋がるとの説明があった。



ボールを保持してのランニング



ボールハンドリング

時間の関係もありシューティング・ドリルまではできなかったが、それに関連して結城講師から参加者に対し、以下のアドバイスがあった。

- ・シュートはドリブルの延長、床から壁に沿ってリング下にドリブルするイメージ
ドリブルでボールを強くつくことで手首が鍛えられ、シュートに繋がる。ドリブルの最終の形がシュートとなるイメージを持つこと。
- ・手首を使ってボールを上には上げるのではなく、指先でボールをコントロール（強弱や方向）すること。よって手首よりも指を鍛えること（これは自宅でも練習が可能、寝転んで天井に向かってボールを投げ上げる）。
- ・ボールのアーチは、投げ出されたボールが視界から消える程度、これは練習で感覚をつかむこと。
- ・そして正しいフォームで繰り返し何度も練習すること。



ドリブル模範プレー



シュート模範プレー

2時間半にわたるクリニックの最後に、モントリオールオリンピック日本代表選手であった結城講師より参加者全員にオリ・パラピンバッジが記念品として手渡された。

また、本年4月より中学生になる12名には恒例のメッセージ文書とバスケットボール英語単語集を手渡した。

開催に当たり、地元の連盟、ミニバス連盟、ミニバスコーチの皆様には、本クリニックの趣旨をご理解頂き、今回も準備段階から大変にお世話になった。東京海上日動男子バスケットボール部（ビッグブルー）から、鍛本ヘッドコーチと、舟橋、後藤、梶井の3選手に、休日にも拘わらず、ボランティアとして参加頂いた。誌面を借りて厚くお礼を申し上げたい。

冒頭述べた通り、本クリニックは今回が5回目で地域に定着してきた感があるが、参加者はほとんどがミニ経験のある小学校上級生である。講師の話聴く際の集中力はやはり中学生に比べると劣るのは仕方ないのでその点を考慮し、最後にお愉しみの要素も取り入れた。具体的には、男女に分かれてのゲーム形式の練習である。特に男子はボランティア参加してくれたビッグブルーの3選手との対抗戦を行い、大いに盛り上がった。



参加者へのオリ・パラピンバッジの贈呈

人物抄

山本 治 さん



山本さんは、昭和9年北海道のご出身で、現在は東京都板橋区にお住まい、生涯現役と言われるほどお元気である。

バスケットボールの始まりは？と聞くと、「ウーン小学生の時からかなあ」との返事、当時はミニバスなるものがなかった時代。山本さんが通っていた帯広小学校は全部で2,000名くらい生徒がいて、北海道ゆえか大きな体育館もあり、そこで大勢がやっていたバスケットボールを見てバスケットに興味を持ち、帯広第一中学に入ると同時にバスケットボールに取り組みされた。

この頃は学制改革により、中学の上級生は尋常高等小学校からの転校生で、バスケットボールの先輩はいなかったの、練習は自分たちで研究したとか。

帯広三条高校に入学された山本さんは、当然のこととしてバスケットボール部へ入ったが、その頃から急に背丈が伸び始めたという。中学までは一般的な体格だったが、高校のときは1年間に10cm 上背が伸びてポジションもセンターとなり、即レギュラーとなって活躍したが、この頃も正式なコーチはいなくて自分たちで工夫した練習だった。

北海道の中でもバスケットボールが盛んだった帯広の高校時代、3年生のときには全道大会決勝戦で札幌南高校と戦ったが、準優勝でインターハイには行けなかった。

高校卒業後は砂川にあった東洋高压に入社され、ここでも仲間とともにバスケットに励み、大阪で開催された昭和28年度全日本実業団選手権大会に出場された。

向学心に燃えていた山本さんは、1年後に東洋高压を退職、札幌に移って予備校に入学したが、この頃180cm 以上の上背があった山本さんは、東京教育大学関係者の目にとまり、やがて上京し教育大学の門を叩く。

当時、常時学生最上位にいた東京教育大学で、名将吉井四郎さんがコーチするバスケット部に入った山本さんは、その上背を生かしてめきめきと上達、2年生でレギュラーとなり関東学生選手権を制覇、3年生のときに秋のリーグ戦でも優勝している。

かつて九州八幡製鉄のバスケットボール部が活躍していた頃、教育大の合宿が九州八幡で行われたある日、練習のため体育館へ向かっていた時、近くで火災が発生、山本さんたちは練習よりも被災者の避難をと、家屋の2階から住民を助け出したりして、後に消防から感謝状をもらったそうだが、そのときコーチの吉井さんは先に体育館へ出向いていて、携帯電話がなかった当時ゆえ連絡もとれず、情報伝達に大変な苦勞をしたことがあったという。

大学卒業後は、先輩でもあった羽柴さん率いる熊谷組に入社され、実業団での活躍が始まるが、山本さんは正式に入社する前から会社の寮に入ることが許され、周りから羨ましがられたという。

当時、熊谷組は関東実業団リーグで1部に在籍していたが、その頃はまだ日本リーグがなく、1部リーグには日本鋼管、日本鉱業、三井生命、鐵興社、東京海上などの強豪がひしめいていた。その中で上背があり高いジャンプ力があった山本さんはリバウンドで活躍、1部クラスを確保する原動力になった。

東京オリンピックが開催された昭和39年(1964)に現役を引退された山本さんは、「私は現役時代に代々木第二体育館でのプレーはできなかったんですよ」と懐古する。

山本さんは現役引退後会社の業務に励むことになったが、熊谷組のコーチが故関さんに替わった頃日本リーグが発足、経済状況も好転し熊谷組もバスケット部の強化を始めた。

部長、監督から選手の獲得を依頼され、大学で同期だった笠原さん率いる教育大はもとより、他の大学の優秀な選手の獲得に一役買い、裏方さんとしての活躍となった。会社の所属は本社や東京支店などが殆どで、40年近くいた会社で現場に出たのは3年間位と振り返る。そして営業部長だった頃には、日体大の稲垣さんを介して同大学建築関係の仕事を回してもらったこともあるそうだが、この頃稲垣さんや故川本さんに誘われて振興会に入れたらしい。

バスケットに対する情熱が絶えない山本さんだが、振興会の全体行事に欠席されたことがないことも特筆される。

やがて定年退職した山本さんは、体を鍛えようと自宅近くの体育館へ筋トレに通っていたが、そのときバスケットコートでわいわいとバスケットを楽しんでいる若者たちを目にして再びバスケットボールの情熱に火がついた。

誘われてその中に入った山本さんだったが、子供達から「おじさん」と呼ばれたのには少し参ったらしい。これまでバスケットで様々な苦勞をしてきた山本さんは、そんなことには構わずバスケットを始めると、今度は「先生」と呼ばれるようになった。先に生まれたのだから先生と呼ばれるのも悪い気分ではなかった山本さんはその後もプレーを続けた。その体育館におけるバスケットボール同好会は100人以上の規模となり、やがて練習後に懇親を深めるほど発展したそうである。

この関りから、やがてシニアチームである「駄馬(DABA)」に入り、現在でもプレーを続けている山本さんは、バスケットボールは自分の生涯スポーツと言って、80歳を遥かに超えてもオンザコートに立つ。

もちろん出身の北海道で開催されるシニア大会にも駆けつけ、「帯広シルバーズ」の最高齢選手として活躍した。80歳を超えても頑張る山本さんの活躍に目を付けた、出身地の十勝毎日新聞が、大きな見出しで山本さんを紹介する記事を掲載している。



山本さんは、高校や中学へ出向いて少しでもバスケットボールの基本を教えたいと思うのだが、最近は何故かそういう好意が敬遠されていて残念です、という。

今年も5月24日、25日に、振興会が主催するシニア交歓大会が開催されたが、駄馬チーム山本さんの元気なプレーが光っていた。



アメリカのバスケット学生界を語る

— 加藤稔樹氏のレポート紹介 —

一杉 真城

私は、元日本代表チーム監督の故小浜元孝氏がアメリカ滞在中付き添ってお手伝いした経緯で、バスケットボール界にかかわりを持つことができました。

「小浜元孝」監督が2017年1月12日に亡くなられて、1年余が経ち、「監督」と言えば小浜元孝と言われることも、時間の経過の中で薄められて行くのかもしれませんが。

「監督」を通じて、丸尾充さんや佐室有志さんとのご親交も結ばせていただきました。

JBLとbjリーグが分かれていた頃、カナダに新しくできたNBL-Canadaと、JBL-Japanとの定期戦をやろうということで、当時トロントに進出していたTOYOTAさんをメインスポンサーさんにとの提案をさせていただきました。

これは、NSCAAという64大学を組織した機構や、NSBLというNBAへの登竜門としてのプロリーグを立ち上げるなどの苦勞をされたDr. ミラー、ビル・ミラー博士との親交がもとの縁によりできた企画でした。

バスケットのみならず、ボストン大学でサッカー監督をされたミラー博士は、ニューハンプシャー工科大では副学長の要職を歴任されました。私は、かつて「監督」が指揮されていた「いすゞギガキャッツ」にウオルター松島選手を紹介させて頂くとともに、NBAのチームがVTRを取り寄せて今一歩だった阿部理選手まで、多くの選手の縁を橋渡ししてきました。

今回は、ブルースター・アカデミーやノースフィールドマウントハーマンなどのトップチームが集まるレイクレジオンリーグのトロント・スクールに、アシスタント・コーチとして貴重な経験をした加藤稔樹氏に、そのレポートをまとめてもらいました。

トロント・ラムズは、2017-18シーズンに、田中力君が進学するIMGアカデミーと2度にわたって対戦し、12月18日は100-97、3月6日には92-91で競り勝っています。コーチ加藤のレポートを、お楽しみください。なお、トロント・スクールは、ミラー博士の出身高校です。

(ヒトスギ塾 代表)

会員だより

アメリカ挑戦の架け橋：ニューイングランドプレップでの経験を踏まえて

ティルトンスクール アシスタント・コーチ（インターン） 加藤 稔樹



コーチ（右）とともに

私はNEPSACに所属するTilton Schoolで、2017-18シーズンをアシスタントコーチ（インターン）という立場で過ごすことができました。近年、スラムダンク奨学金や渡邊雄太選手のアメリカ挑戦などで有名になった「St. Thomasmore School」や「South Kent School」、これらはアメリカ東海岸の北部、ニューイングランド地区の進学校のリーグ、「NEPSAC」に所属しています。これらの学校はPrep Schoolと言われ、アメリカのバスケットボールの中でもPG（Post Graduate）のカテゴリーで試合をしています。



Post Graduateは高校を卒業したけれども、大学からのオファーがなかった、またはもっといい選択肢を持ちたいという選手のためにあるプログラムです。そのため、高校を卒業して大学に行く選手よりも、1歳年上になります。また、州や家庭によっても義務教育に就学し始める年齢が違うために、日本のように18歳が高校3年生とは言えません。年齢ではなくて、何年に卒業するのかを示す「Class of 20~」という言葉が使われます。2018年卒業であれば、Class of 18と一般的に言われます。

今からアメリカ挑戦を考えている選手へ私の考えと、日本の育成世代のバスケットのシステムについての考え方を述べさせていただきたいと思います。

アメリカのプレップスクールだけではなくアメリカの高校バスケットに共通していることは、転校が容易であるということです。2017年にプレーしたチームと2018年にプレーしたチームが違うということはよくある話です。日本にもこのシステムを導入することは、教育的見地からとても意義があると感じます。

例えば、今期Duke大学に加入したMarvin Bagley選手は、高校1年時は地元の高校に通い、2年目は地元アリゾナ州の有名私立校、3年時はカリフォルニア州の私立校に転校してプレーしています。4年時になるときに、すでにDuke大学からオファーを受けていたために、RECLASSといって卒業を1年早めて今季Duke大学に加入しました。大学が9月にスタートする前に18歳になっていれば大学に入学できるため、こうしたことは、アメリカのトップ数人の選手はよく行います。今年卒業のClass of 18 No.1のR.J. Barrett選手もClass of 19だったものを、世界選手権終了後、オファーをたくさん受けてClass of 18に変えて、Duke進学を決定しました。

私が、これらの制度から受ける印象は、適切なときに、適切な場所やステージでプレーするということです。日本に置き換えると、ジュニアオールスターで活躍した選手でも、

会員だより

1年生からスタートをはり、半分以上試合に出られない場合は、強豪校に行かずに、地元で1年活躍する。その後に強豪校でスタートとして出られる力を付けてから、強豪校に転校するという事です。

ですので、アメリカの高校にバスケットボールで挑戦する場合、日本のように、1年生では出られなくても、4年間頑張っって強い大学にということは、考えないほうがいいということです。

1年時から強豪校に入り、1年時は出場できない、2年時はまたスター選手が他校から4年生に編入してきて出られない。それが4年時の卒業まで繰り返されるということになります。

進学先を選ぶための3年、4年時に強豪のリーグでどう活躍するのか、そのためにどう道筋を立てていくかが大切です。全て道筋通りに行くわけではありません。しかしこの仕組みを知り、どういったシーズンを、どこで1年送りたいのかを決めておくことが、鍵になると思います。その高校のチームとコーチを知り、いいオファーを受けるために、自分にあっているのか、吟味して欲しいと思います。

アメリカの高校では11月から3月までが学校のバスケットのリーグ戦やプレーオフのゲームが怒涛のごとく続きます。週3試合が当たり前です。ですので、シーズン中に個人練習に割かれる時間はとても少ないです。前回の試合の修正点の確認と、次回対戦相手の対策に割かれる時間がほとんどです。自分の課題は自分自身で解決するのが当たり前。その上でチームの練習時間や試合で、チームの課題を克服しながらプレーできる選手が試合に出られるのです。その上、進学のために高い成績を維持することを要求されます。そうでない人間は淘汰されていく。それがアメリカの指導現場のように感じます。

私のチームでは、練習もしていない戦術をいきなり実戦で使う、といったこともありましたが。しかし選手たちは驚きもせずに対応します。それはやはり基礎がしっかりして



加藤学園高校・飛龍高校と交流
(3月14日、静岡県沼津市)

ていないとできないことです。自分で自分の基礎技術に磨きをかけるにはどうすることがいいのか、ある程度のことを知識として習得してから渡米しなければ、試合の後に自分の修正ができずに周りに抜かれていくことになります。

日本のプロでも、現在週に2試合～3試合行われ、それが10月～5月まで続きます。連戦の日もあると思います。そうした中で、練習でやっていないからできない選手では、シーズンを通して成長していける選手にはなりません。競技力の向上とホームチームを会場で応援する文化を作るた

めにも、ホーム&アウェーのシーズン制を導入し、その後プレーオフを行うシステムを大学のNCAA化と並行して行って欲しいと思います。

会員だより

そうすることで、コーチを選手自身が選ぶことができ、選手の将来性を考えない指導者が指導してられない環境を作ることができます。また選手自身も、どのチームのコーチはどういった指導・バスケットスタイルを持っているか知る必要があります、大学、その先のプロになるときも、どのコーチがどういうスタイルをとっているかを知ることが当たり前になっていかなければならないと感じます。



最後に、アメリカのバスケットボールに多大な影響を与えているAAUプログラムについて述べたいと思います。AAUプログラムはクラブチームのバスケットボールです。4月～7月にアメリカ各地を転戦します。主にはADIDAS、NIKE、UNDERAEMERなどが各キャンプを主催し、自社がスポンサーするクラブチームを集めて試合を行います。

このAAUプログラムが、現在ではリクルートの面で、学校のバスケットよりも重要だと私は感じます。学校のバスケットにも大学スカウトはきます。

4月～7月は大学バスケットがオフシーズンであるために、多くの大学のヘッドコーチが直接キャンプを見にきます。特に強豪大学のコーチが



Arizona Elite NCAA

見にくるために、AAUバスケットの方が重要になります。高校卒業後、PGに一年だけ行くよりも、2年～3年アメリカに渡り、AAUに参加するともっと多く、より良いカレッジからのオファーが得られます。選手の海外挑戦への支援は、AAUの問題も考慮していただけると、選手もPGの一年だけいく場合に比べて、より高いレベルにいけると感じます。AAUを踏まえて今後の、日本選手の海外挑戦を支援していく必要があると感じます。

もう一度要点を確認すると

1. 自分の実力にあったステージでプレーをすること。そのために実力に応じたリーグの形成と、転校できるシステムの形成。
2. シーズン制で3ヶ月リーグ戦を行うことでの試合経験を増やすこと、試合を通じ自分で上達すること。
3. 自分がプレーしたいコーチの特徴をよく知り、コーチを選べる環境づくり。
4. アメリカにPGから挑戦するのではなく、その前の学年から渡米しAAUに参加する。

以上が、日本の育成世代を底上げし、日本のバスケットの発展に大事なのではないかと感じています。

第 1 1 回シニア交歓大会 IN YOYOGI

[編集部]

1 1 回目を迎えた恒例のシニア交歓大会 IN YOYOGI は、代々木第二体育館が工事中で使用できないため、今回は国立代々木青少年センター体育館において、5月24日～25日に開催された。今年度から J B A 新設の社会人連盟との関係から、大会名から“全国”を外した形となった。

本年は、代々木第二体育館での開催とならず、参加チームが少ないのではという心配があったが、ほぼ例年通りの参加チームで、遠くは岩手、神戸や長野から新幹線を使っでの参加で盛り上がった。

参加数は、男子8チーム、女子5チームに加えて、今回から女子60歳以上の試合も設定され、男子70歳以上の試合と併せて、高齢者バスケットボールを楽しむ姿がみられた。

1 日目の終了後、代々木の J F E 研修センターにて開催された懇親会も盛況で、80名以上の参加者で賑わった。参加各チームの感想文は次号にて報告することとし、ここでは対戦結果のみ掲載する。

5月24日の結果

	チーム名	対戦スコア		チーム名
男子	駄馬	39	35	千葉Coki-Coki
男子	セブンブラザーズ	28	35	横浜ビー・シーガルズ
女子	入間テンドース	16	21	長野クラブシニア
男子	シルバーキッズ	24	24	岩手マスターズ
女子	長野クラブシニア	34	10	シルバーキッズレディース



5月25日の結果

	チーム名	対戦スコア		チーム名
男子	岩手マスターズ	22	32	STARS OF STARS
女子	埼玉	51	32	千葉
男子	千葉Coki-Coki	19	38	セブンブラザーズ
男子	Gsブルー・ウィンズ	33	31	シルバーキッズ
男子	70up A	13	15	70up B
女子	埼玉60up	20	13	60up 混合
女子	シルバーキッズレディース	19	42	埼玉
男子	STARS OF STARS	28	21	Gsブルー・ウィンズ
男子	SOS 混合	30	17	SLK 混合
女子	千葉	17	48	入間テンドース
男子	横浜ビー・シーガルス	28	12	駄馬
女子	埼玉60up	17	8	60up 混合



次回来年度の開催は体育館の関係が微妙で、代々木第二体育館の修復工事が完了すれば、そこでの開催となりそうだが、現在のところ見通しが立っていない。

Bリーグ 2017~18 シーズン結果

[編集部]

昨年10月から始まった、第2回Bリーグは5月26日のチャンピオンシップファイナル決勝戦をもって幕を閉じた。昨シーズンと比べ観客動員数も延び、各クラブとも運営に明るい見通しが見えてきたが、レギュラーシーズンリーグ戦において、上位クラブと下位クラブでは勝率の差が著しく、下位クラブのB2リーグへの転落も見られた。

各クラブの成績は、まずリーグ戦の勝率によって順位を決め、同率の場合は当該クラブ同士の対戦成績などによって順位決定される方式。

また、リーグ戦成績によって進出が決まるチャンピオンシップトーナメントには、3地区から上位2クラブずつが選出され、残り2枠のワイルドカードにすべての地区の勝率上位チームが選出される。

その結果、強豪がひしめく東地区から4クラブがチャンピオンシップに出場し、最終的な王者には東地区のアルバルク東京が名乗りを挙げた。

レギュラーシーズンリーグ戦クラブ別成績表

全60試合戦うリーグ戦では、勝ち越したクラブは8クラブで、下位クラブが上位クラブに喰われた格好、地区別では東地区4クラブが勝ち越し、中、西地区ではそれぞれ2クラブが勝ち越してチャンピオンシップ出場権を獲得した。

クラブ 名	ホーム タウン	略 称	地区 順位	成 績			勝 率	
				勝	敗	計	順位	勝率
B1								
シーホース三河	刈谷市	三 河	中1	48	12	60	1	0.800
千葉ジェッツふなばし	船橋市	千 葉	東1	46	14	60	2	0.767
アルバルク東京	渋谷区	A 東 京	東2	44	16	60	3	0.733
琉球ゴールデンキングス	沖縄市	琉 球	西1	42	18	60	4	0.700
東芝川崎ブレイブサンダース	川崎市	川 崎	東3	41	19	60	5	0.683
リンク栃木ブレックス	宇都宮市	栃 木	東4	34	26	60	6	0.567
京都ハンナリーズ	京都市	京 都	西2	34	26	60	7	0.567
名古屋ダイヤモンドドルフィンズ	名古屋市	名古屋D	中2	31	29	60	8	0.517
サンロッカーズ渋谷	渋谷区	SR 渋谷	東5	28	32	60	9	0.467
新潟アルビレック スバスケット	長岡市	新 潟	中3	28	32	60	10	0.467
レバンガ北海道	札幌市	北 海 道	東6	26	34	60	11	0.433
三遠ネオフェニックス	豊橋市	三 遠	中4	25	35	60	12	0.417
大阪エヴェッサ	大阪市	大 阪	西4	24	36	60	13	0.400
滋賀レイクスターズ	滋賀県	滋 賀	西3	24	36	60	14	0.400
富山グラウジーズ	富山市	富 山	中5	24	36	60	15	0.400
横浜ビー・コルセアーズ	横浜市	横 浜	中6	18	42	60	16	0.300
西宮ストークス	西宮市	西 宮	西5	12	48	60	17	0.200
島根スサノオマジック	松江市	島 根	西6	11	49	60	18	0.183
合 計				540	540	1080		

B1リーグにおいては、各地区クラブ間の交流戦を含めて各クラブ60試合を戦った結果、1位の三河は48勝12敗、勝率80%という素晴らしい成績を残した。半年以上の期間リーグ戦を続ける中では、どのクラブでも好不調の波はあるものだが、コンスタントに勝ち続けた三河のレギュラーシーズン1位は称賛に値する。

以下勝率2位千葉76.7%、3位A東京73.3%、4位琉球70%、5位川崎68.3%でそれぞれ40勝を上回ったが、昨シーズン優勝の栃木は5位に終わった。

レギュラーシーズン個人表彰

レギュラーシーズンのMVPには、シーホース三河#6 比江島 慎選手が選出された。また、ベスト5に選ばれた選手はつぎの通り。

クラブ名	No	氏 名
シーホース三河	#6	比江島 慎
シーホース三河	#14	金丸 晃輔
川崎ブレイブサンダース	#22	ニック・ファジーカス
アルバルク東京	#24	田中 大貴
千葉ジェッツふなばし	#2	富樫 勇樹

そして新人賞には、アルバルク東京の馬場雄大選手が輝いた。

B2リーグでは、秋田がずば抜けた90%の勝率で優勝し、入れ替え戦においても勝ち進んで来季1部への昇格を決めた。2位の福岡も同様に1部昇格となった。

B2								
秋田ノーザンハピネッツ	秋田市	秋 田	東1	54	6	60	1	0.900
ライジングゼファーフクoka	福岡市	福 岡	西1	47	13	60	2	0.783
熊本ヴォルターズ	熊本市	熊 本	西2	41	19	60	3	0.683
豊通ファイティングイーグルス名古屋	名古屋市	FE名古屋	中1	39	21	60	4	0.650
福島ファイヤーボンズ	郡山市	福 島	東2	38	22	60	5	0.633
サイバーダイン茨城ロボッツ	つくば市	茨 城	中2	38	22	60	5	0.633
広島ドラゴンフライズ	広島市	広 島	西3	33	27	60	7	0.550
愛媛オレンジバイキングス	愛媛県	愛 媛	西4	33	27	60	7	0.550
群馬クレインサンダーズ	前橋市	群 馬	中3	32	28	60	9	0.533
金沢武士団(サムライズ)	金沢市	金 沢	中4	28	32	60	10	0.467
パセラボ山形ワイヴァンズ	山形県	山 形	東3	25	35	60	11	0.417
信州ブレイブウォリアーズ	千曲市	信 州	中5	25	35	60	11	0.417
香川ファイブアローズ	高松市	香 川	西5	22	38	60	13	0.367
仙台89ERS	仙台市	仙 台	東4	21	39	60	14	0.350
アースフレンズ東京Z	大田区	東 京 Z	中6	20	40	60	15	0.333
バンビシャス奈良	奈良市	奈 良	西6	19	41	60	16	0.317
青森ワッツ	青森県	青 森	東5	18	42	60	17	0.300
岩手ビッグブルズ	盛岡市	岩 手	東6	7	53	60	18	0.117
合 計				540	540	1080		

クラブ別スタッツ

次の表は、クラブ別のスタッツで平均得点の高い順に並べた各部門の数字だが、これを見ると各クラブの課題が自ずとわかるようだ。

まず得点だが、平均80点以上得点を挙げているのは4クラブのみで、国際大会における100点近くの得点と比べるとはるかに低い。そして得点が失点を上回っているのは僅か3クラブで、あとはすべて失点が得点を上回っていて、勝敗に影響している。

シュートの確率を見ると3ポイントシュートの30%台はまあまあとして、2ポイントシュート確率がすべてのクラブで50%に届かないのは気にかかる。近接するディフェンスがいることを考慮したとしても、この確率の低さが得点にも現れていて、各クラブとも改善の余地がありそうだ。

更にフリースローでも80%台のクラブはなく、シュート時にファウルをもらっても、確実に得点に結びついていないことがうかがえる。

2017-18 シーズン B1 チーム別スタッツ一覧表

勝率	略 称	G数	平均/G			野 投 数/G		自由投数/G
			順 位	得点	失点	3P/G/%	FG/G/%	FT/G/%
1	シーホース三河	60	1	84.6	77.8	6.5/17.9(36.6%)	31.9/64.8(49.2%)	14.3/18.6(77.1%)
2	千葉ジェッツふなばし	60	2	84.5	73.5	7.6/22.1(34.4%)	32.1/65.3(49.1%)	12.8/19.0(67.3%)
5	川崎ブレイブサンダース	60	3	82.4	76.2	7.0/19.4(36.2%)	30.5/64.8(47.0%)	14.4/19.3(74.6%)
10	新潟アルビレックスバスケット	60	4	81.0	81.4	7.8/22.8(34.1%)	29.4/64.2(45.8%)	14.4/18.4(78.7%)
11	レバンガ北海道	60	5	79.4	80.7	6.3/18.3(34.3%)	29.3/64.3(45.6%)	14.5/19.0(76.5%)
3	アルバルク東京	60	6	79.2	71.1	6.3/17.8(35.8%)	29.3/62.7(46.7%)	14.3/18.8(76.3%)
8	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ	60	7	79.2	79.5	8.8/25.1(35.1%)	29.1/64.2(45.4%)	12.2/16.5(73.9%)
7	京都ハンナリーズ	60	8	78.0	78.5	7.2/20.6(34.9%)	27.6/60.6(45.5%)	15.7/22.1(70.7%)
13	富山グラウジーズ	60	9	77.4	80.4	6.8/19.5(35.1%)	29.9/68.0(43.9%)	10.9/15.1(72.1%)
16	横浜ビー・コルセアーズ	60	10	75.4	81.0	5.3/16.7(31.8%)	28.6/64.5(44.3%)	12.9/18.9(68.5%)
4	琉球ゴールデンキングス	60	11	74.9	67.7	8.8/24.2(36.4%)	27.4/61.1(44.9%)	11.2/16.4(68.7%)
6	リンク栃木ブレックス	60	12	74.9	73.1	6.0/18.2(32.8%)	29.2/67.7(43.1%)	10.6/15.0(70.3%)
13	大阪エヴェッサ	60	13	73.6	76.2	6.0/18.6(32.4%)	27.3/63.4(43.0%)	13.0/17.5(74.5%)
14	滋賀レイクスターズ	60	14	73.6	76.9	5.1/16.4(30.9%)	28.4/63.8(44.5%)	11.7/17.2(67.9%)
12	三遠ネオフェニックス	60	15	72.8	74.9	7.7/22.3(34.4%)	26.6/61.0(43.5%)	12.1/18.0(67.1%)
17	西宮ストークス	60	16	72.1	83.3	5.6/17.1(32.7%)	27.6/67.8(40.7%)	11.4/15.4(74.3%)
9	サンロッカーズ渋谷	60	17	71.3	73.5	6.2/19.6(31.5%)	27.3/66.6(41.0%)	10.5/14.5(72.1%)
18	島根スサノオマジック	60	18	70.9	79.6	6.0/17.9(33.5%)	27.4/64.8(42.3%)	10.1/14.2(71.1%)

次表は、シュート以外のスタッツをまとめた表で、上記同様得点順に並べてあるが各クラブ間で極端な差は生じていないようだが、やはり1位の三河の数字がやや良いようだ。

すなわちリバウンド本数がトップで、ミスが少なく確実な試合運びをしている状況がわかる。ファウル数が一番少ないのはディフェンスがいいからか。

勝率	略 称	G数	ORB	DRB	TRB	AST	STL	BLK	TOV	PF
1	シーホース三河	60	10.8	28.7	39.5	20.4	5.9	2.4	10.9	15.6
2	千葉ジェッツふなばし	60	10.9	26.0	36.9	21.1	8.5	3.6	12.2	17.0
5	川崎ブレイブサンダース	60	11.6	26.2	37.8	21.1	6.7	2.1	12.2	16.2
10	新潟アルビレックスバスケット	60	9.9	26.7	36.6	16.2	5.2	2.2	11.0	18.1
11	レバンガ北海道	60	10.7	24.3	35.0	21.5	8.0	3.2	13.0	18.8
3	アルバルク東京	60	11.0	26.6	37.6	18.4	6.6	3.1	10.6	17.8
8	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ	60	9.2	26.9	36.1	19.4	6.5	2.1	12.4	16.9
7	京都ハンナリーズ	60	10.9	24.6	35.5	17.5	6.2	2.0	12.5	18.2
13	富山グラウジーズ	60	11.0	26.8	37.8	19.6	6.1	2.8	11.8	20.6
16	横浜ビー・コルセアーズ	60	10.9	25.0	35.9	19.9	7.3	3.5	13.2	19.2
4	琉球ゴールデンキングス	60	11.0	27.1	38.1	19.6	7.2	3.4	14.1	19.1
6	リンク栃木ブレックス	60	12.6	25.1	37.7	18.0	7.8	2.5	10.8	19.2
13	大阪エヴェッサ	60	11.0	26.3	37.3	18.4	6.5	3.0	13.6	19.2
14	滋賀レイクスターズ	60	11.4	26.2	37.6	19.9	7.0	3.7	13.7	19.2
12	三遠ネオフェニックス	60	8.3	28.2	36.5	17.2	5.4	1.8	12.1	15.5
17	西宮ストークス	60	11.5	24.7	36.2	14.8	7.7	2.6	12.3	20.2
9	サンロッカーズ渋谷	60	12.3	26.5	38.8	16.8	7.2	2.4	11.9	16.6
18	島根スサノオマジック	60	11.1	25.8	36.9	17.0	6.0	2.8	13.2	19.7

(用語説明) ORB＝オフェンスリバウンド数 AST＝アシスト数 TOV＝ターンオーバー数
DRB＝ディフェンスリバウンド数 STL＝スティール数 PF＝パーソナルファール数
TRB＝リバウンド総数 BLK＝ブロック数

リーグ戦観客動員数

Bリーグ全体の観客動員数は、昨シーズン223万人余りだったが、今シーズンはそれを遥かに上回る250万人あまりを達成、昨シーズン比11.8%の増となった。

また、5月26日に横浜アリーナで開催された、チャンピオンシップファイナルには、12千人余りの観客が押し寄せ、会場の雰囲気も盛り上がった。

各クラブ運営のバロメーターともなる観客動員数については次表の通りだが、1部リーグで見る限り、18クラブ中、昨シーズンを下回ったクラブは3クラブで、総じて増加傾向にあり、Bリーグの広報活動と各クラブの努力が実っている。

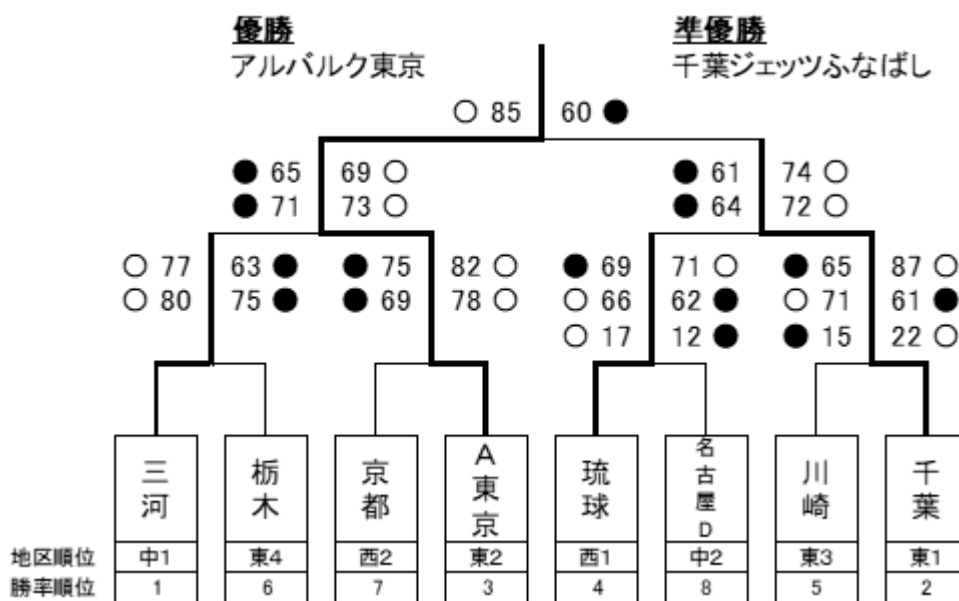
トップの千葉ジェッツに関して言えば、平均で5,000名を上回り、クラブの収入も14億円を超える状況で立派。こうなると当初宣言していたように、1部は各クラブとも5,000名を上回る観客を収容できる体育館をホームアリーナにするべき、という方針が妥当性を帯びてきている。観客動員数が多くなれば、必然的にスポンサーも増加する方程式が見えてきていて、将来性に期待がもてる。

千葉ジェッツのファンに感想を聞いてみると、「こうなると当初5,000名以上収容できるホームアリーナという区切りだったが、最近では収容力が不足してしまうゲームもあり、更に大きいアリーナが欲しい」と言う意見が出た。クラブが強いことに加えホームタウンのバックアップなど、工夫次第で更に良い方向へ進んで行きそうな例が、栃木に加えまた一つ増えた。

Bリーグ《2017-18年度(Ⅱ):2016-17前年度(Ⅰ)リーグ戦》観客動員数比較表

クラブ名	略 称	(2017-2018＝今年) 観客動員数				(2016-2017＝前年) 観客動員数				増 加 額		
		年合計(人)	平均(人)	ゲーム数	順位	年合計(人)	平均(人)	ゲーム数	順位	合 計(人)	%	平均(人)
B1												
千葉ジェッツふなばし	千 葉	155,894	5,196	30	1	135,043	4,501	30	1	20,851	115.4%	695
レバンガ北海道	北 海 道	112,285	3,743	30	2	83,865	2,796	30	7	28,420	133.9%	948
リンク栃木ブレックス	栃 木	109,594	3,653	30	3	100,672	3,356	30	2	8,922	108.9%	297
琉球ゴールデンキングス	琉 球	100,494	3,350	30	4	99,615	3,321	30	3	879	100.9%	30
横浜ビー・コルセアーズ	横 浜	93,074	3,102	30	5	90,277	3,009	30	6	2,797	103.1%	93
新潟アルビレックスバスケット	新 潟	92,750	3,092	30	6	90,452	3,015	30	5	2,298	102.6%	77
川崎ブレイブサンダース	川 崎	91,677	3,056	30	7	73,461	2,449	30	12	18,216	124.8%	607
大阪エヴェッサ	大 阪	90,221	3,007	30	8	82,966	2,766	30	8	7,255	108.7%	241
シーホース三河	三 河	85,978	2,866	30	9	75,023	2,501	30	10	10,955	114.6%	365
サンロッカーズ渋谷	SR 渋谷	77,248	2,757	30	10	68,500	2,283	30	16	8,748	120.7%	474
富山グラウジーズ	富 山	81,927	2,731	30	11	74,418	2,481	30	11	7,509	110.1%	250
名古屋ダイヤモンドフィズ	名古屋D	79,569	2,652	30	12	81,192	2,706	30	9	△ 1,623	98.0%	△ 54
アルバルク東京	A 東 京	75,209	2,507	30	13	88,126	2,938	30	15	△ 12,917	85.3%	△ 431
滋賀レイクスターズ	滋 賀	69,773	2,326	30	14	64,434	2,148	30	17	5,339	108.3%	178
島根スサノオマジック	島 根	67,167	2,239	30	15	45,015	1,501	30	5	22,152	149.2%	739
京都ハンナリーズ	京 都	62,765	2,092	30	16	58,314	1,944	30	18	4,451	107.6%	148
三遠ネオフェニックス	三 遠	62,630	2,088	30	17	70,395	2,347	30	14	△ 7,765	89.0%	△ 259
西宮ストークス	西 宮	56,035	1,868	30	18	32,428	1,081	30	11	23,607	172.8%	787
	合 計	1,564,290	2,897	540		1,414,196	2,619	540		150,094	110.6%	278
B1												
秋田ノーザンハピネッツ	秋 田	86,900	2,897	30	1	91,734	3,058	30	4	△ 4,834	94.7%	△ 161
仙台89ERS	仙 台	64,566	2,152	30	2	72,568	2,419	30	13	△ 8,002	89.0%	△ 267
熊本ヴォルターズ	熊 本	64,527	2,151	30	3	63,151	2,105	30	1	1,376	102.2%	46
広島ドラゴンフライズ	広 島	58,377	1,946	30	4	55,818	1,861	30	2	2,559	104.6%	85
フイナンダセファーフクオカ	福 岡	51,519	1,717	30	5	39,229	1,308	30	6	12,290	131.3%	409
バスラボ山形ワイヴァンズ	山 形	51,382	1,713	30	6	47,147	1,572	30	4	4,235	109.0%	141
愛媛ファイティングイーグルス名古屋	FE名古屋	48,143	1,605	30	7	26,629	888	30	14	21,514	180.8%	717
アイバーサイン茨城ロボッツ	茨 城	47,757	1,592	30	8	31,404	1,047	30	12	16,353	152.1%	545
青森ワッツ	青 森	47,600	1,587	30	9	51,902	1,730	30	3	△ 4,302	91.7%	△ 143
福島ファイヤーボンズ	福 島	43,219	1,441	30	10	35,283	1,176	30	8	7,936	122.5%	265
アースフレンズ東京Z	東 京 Z	42,021	1,401	30	11	32,654	1,088	30	9	9,367	128.7%	313
信州ブレイブウォリアーズ	信 州	41,632	1,388	30	12	38,229	1,274	30	6	3,403	108.9%	114
群馬クレインサンダース	群 馬	40,648	1,355	30	13	36,841	1,228	30	7	3,807	110.3%	127
秋田ノーザンハピネッツ	秋 田	34,015	1,134	30	14	35,332	1,178	30	6	△ 1,316	96.3%	△ 44
バンビシャス奈良	奈 良	30,220	1,007	2	15	32,612	1,087	30	10	△ 2,392	92.6%	△ 80
金沢武蔵(サムライズ)	金 沢	29,466	982	30	16	32,829	1,094	30	2	△ 3,363	89.7%	△ 112
香川ファイブアローズ	香 川	28,939	965	30	17	22,645	755	30	17	6,294	127.8%	210
愛媛オレンジバイキングス	愛 媛	28,015	934	30	18	23,656	789	30	16	4,359	118.4%	145
	合 計	838,946	1,554	512		769,663	1,425	540		69,284	109.0%	128
	総 合 計	2,403,236	2,284	1,052		2,183,859	2,022	1080		219,378	113.0%	262
(備 考)		観客動員人数はホームチームゲーム時の合計										

チャンピオンシップ成績



チャンピオンシップ決勝戦

横浜アリーナで開催されたチャンピオンシップ決勝戦は、アルバルク東京と千葉ジェッツの対戦となり、メディアを含めて注目を集めたが、アルバルク東京が千葉を圧倒し、初優勝を飾った。

このゲームアルバルク東京は、相手に走られないよう最初から厳しいディフェンスを敷いて動きを止め、オフェンスでは田中選手を中心にシュートを決め、最後までリードを保って圧勝した。強力なディフェンスが勝因となったが、それも作戦のうちかも知れない。

	1P	2P	3P	4P	計
アルバルク東京	19	24	18	24	85
千葉ジェッツ	18	15	16	11	60

前述したようにA東京のディフェンスが徹底していた。このため千葉は得意とするリバウンドからの速攻が出せず、速攻での得点は僅か4点にとどまる。ポイントガードの#2 富樫も執拗なディフェンスに苦しめられて、3ポイントシュートが決められず、結果的に千葉は60得点という低得点で終わった。

第1ピリオドこそ拮抗した戦いだったが、第2ピリオドはA東京のオフェンスが冴えて一時は10連続得点を挙げて一気にリードを奪い、43対33で前半を終えた。

第3ピリオド千葉が#34 小野の速い攻めで3ポイントシュートを決めると、A東京はすぐさまタイムアウトを取ってディフェンスを再認識させ、千葉に追い上げのペースを与えなかった。

第4ピリオドに入ると、A東京の#6 馬場が7連続得点をたたき出す大暴れ、追い上げたい千葉を突き放して大量リードのままゲームセットとなる。

スタッツを見てみるとフィールドゴール成功率がそれを語っていて、2ポイントシュート成功率が東京の56.7%に対して、千葉は32.8%、3ポイントシュートでは東京が37.5%でまあまあだったのに対して、千葉は20%のみであった。



©提供 Bリーグ 優勝したA東京

試合終了後に表彰式が行われ、優勝したA東京に賞金5,000万円が贈呈された。
 なお、MVPにはA東京の#24 田中大貴選手が選出された。



©提供 Bリーグ A東京の#24 田中大貴選手

男子日本代表にのぞむ

— ホームゲームでのタイペイ戦を振り返り —

[編集部]

日本男子代表は、FIBAバスケットボールワールドカップ2019の一次予選（第1ラウンド）で最終第3ウィンドウを残し、ホームゲームでのチャイニーズ・タイペイ戦を1点差で敗れ、グループBで4敗の最下位である。

グループBで上位3位以内に入らないと二次予選（第2ラウンド）に進むことができず、中国での本選に参加できない。そのためには、第3ウィンドウのアウェーゲームでチャイニーズ・タイペイ相手に2点差以上で勝利する必要がある。

ここで、一次予選第2ウィンドウ、ホームゲームでのチャイニーズ・タイペイ戦を振り返って、勝利の道を探してみたい。

【日本代表選手】

2018年2月21日現在

No.	氏 名	P	身長	年齢	所 属
0	橋本 竜馬	PG	178	29	シーホース三河
3	辻 直人	SG	185	28	川崎ブレイブサンダース
6	比江島 慎	SG	190	26	シーホース三河
7	篠山 竜青	PG	178	29	川崎ブレイブサンダース
8	太田 敦也	C	206	33	三遠ネオフェニックス
11	宇都 直輝	PG	189	26	富山グラウジーズ
15	竹内 譲次	PF	207	32	アルバルク東京
24	田中 大貴	SG	192	26	アルバルク東京
35	アイラ・ブラウン	PF	193	35	琉球ゴールデンキングス
43	永吉 佑也	PF	198	26	京都ハンナリーズ
51	古川 孝敏	SG	190	30	琉球ゴールデンキングス
88	張本 天傑	PF	197	25	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ
	平 均		191	28	

第1ウィンドウで活躍した富樫選手、馬場選手が怪我のため外れている。

対戦スコア

	1P	2P	3P	4P	計
日本	11	24	14	20	69
チャイニーズ・タイペイ	17	12	22	19	70

日本は、マンツーマンディフェンスを時折交えるチャイニーズ・タイペイのゾーンディフェンスを攻めきれず、ロースコアとなった。第2ピリオドに入った直後の2分間に#3辻の3本の3ポイントシュートで一気に5点をリードし、前半35-29と6点リードした。

第3ピリオドは、中頃まで#3 辻がベンチに下がったこともあったか、得点が伸びず、49-51と2点のビハインドとなった。

第4ピリオドの残り3分、日本は58-65の7点ビハインドとなっていた。ここで、#8 太田がフリースロー2本を、続いて#6 比江島が2ポイントシュートを決めて3点差まで詰めた。残り1分を切って64-68のスコアで#35 ブラウンが2本のフリースローを落とすが、そののちに自ら2ポイントシュートを決めて2点差に迫る。しかし、残り10秒を切って得たフリースロー2本を#7 篠山が落とし、この前後の日本のファウルに相手が1本ずつ決めて4点差となり万事休す。しかし、タイムアップ直前の#3 辻が無理な姿勢からの3ポイントシュートを決めて最終、1点差とした。

この3得点は次のゲームでの最下位脱出に大いに有効となるであろう。

緊迫した接戦のゲームでは、最後の3分が大切である。途中経過がどうであろうと、ここでのミスは敗戦を覚悟せねばならない。

それにしても、#35 ブラウンと#7 篠山が終盤のフリースローを決めていれば勝てたのではなかろうか。第4ピリオド中盤の#43 永吉のリング近くでの2本のシュートは決めて当然のタイミングと見た。全員が全力で戦っていることは十分に見えるが、ミドルシュートとフリースローの成功率を全員が上げてほしい。

個人の得点を見ると、日本の#3 辻が26点、#6 比江島14点、#35 ブラウン12点に対して、チャイニーズ・タイペイは4人が11点から15点で合計53点を稼いでいる。

このスタッツ結果から、日本は辻選手が抑えられると得点できないチームとみられるのではないか。ポイントゲッターをメンバーに加えない限り、#3 辻を生かすチームプレーが必要かつ重要である。プレー時間の長い#35 ブラウン、#7 篠山だけでなく、代表選手はフリースローをはじめシュートの成功率を上げるよう一層の努力が必要ではなかろうか。

日本は、チャイニーズ・タイペイに比べて、2ポイントシュートの成功率が低く、ディフェンスリバウンドの獲得数が少ない。これは、身長差だけではなく、リングへボールを叩き込むという意気込み、勝ちに向かう気迫など、それらの執念が相手より劣っているからではないか。緊迫した接戦では、ゲームの終盤が大切である。

ゲームを通して、日本選手の勝ちに向かう姿勢が相手より弱いと感じた。相手選手は、チャンスを積極的に攻め、ドライブインしたガードでもリング下で日本の選手の腕を潜ってファウルを奪った上シュートを決めようとしていた。日本選手の中にはリング下で振り向けばノーマークの状態でも、キープしていたボールを外角にパスするような場面が見られた。中距離でのノーマーク状態では積極的にシュートして決めて欲しい。フリースローもディフェンスリバウンドが取れない状況なので、すべてを確実に決めてほしい。身長で負けているならば、なお、積極的に攻める姿勢をもってシュートし、決めるべきであろう。

FIBAでは、来る6月の中央理事会でオリンピック開催国枠での日本チーム参加是非条件を審議するという。男子は、ワールドカップ二次予選も突破して、本選に出場することが最低の条件であろう。それには、一次予選を3位以内で通らねばならない。

「AKATSUKI FIVE」男子日本代表WCへの道のり

[編集部]

2017年11月から2018年7月まで3ウィンドウにわたり開催されるFIBAバスケットボールワールドカップ2019の一次予選（第1ラウンド）は第2ウィンドウまでを終え、下記の通り、日本（世界ランク48位）はグループBで4敗の最下位である。

グループB

第2ウィンドウまでの成績

上段ホーム・下段アウェー

順位	チーム	オーストラリア	フィリピン	チャイニーズ・タイペイ	日本	勝	負
1	オーストラリア		○ 84-68	○ 88-68	○ 82-58	4	0
			○	○ 104-66	○		
2	フィリピン	○		○ 90-83	○ 89-84	3	1
		● 68-84		○	○ 77-71		
3	チャイニーズ・タイペイ	● 66-104	○		○	1	3
		● 68-88	● 83-90		○ 70-69		
4	日本	○	● 71-77	● 69-70		0	4
		● 58-82	● 84-89	○			

次の一次予選第3ウィンドウの最終戦で1勝3敗のチャイニーズ・タイペイ（世界ランク55位）に2点以上の差をつけて勝利し、上位3位以内に入らないと二次予選（第2ラウンド）に進むことができず、中国での本選に参加できない。

第3ウィンドウを勝利で突破するため、6月11日、「AKATSUKI FIVE」男子日本代表候補選手メンバー24名が、ヘッドコーチのフリオ・ラマス氏、アシスタントコーチのエルマン・マンドーレ氏及び佐古賢一氏とともに発表された。

候補には、アメリカ滞在中選手及び帰化選手に加えて、大学生、中学生という若手選手が加わっており、BリーグレギュラーシーズンでMVPを得た比江島慎選手、新人賞の馬場雄大選手、チャンピオンシップMVPの田中大貴選手の相変わらぬ活躍を期待したい。

<「AKATSUKI FIVE」選手>

*年齢所属は2018年6月10日現在

NO	選手名	P	身長	体重	年齢	所 属
			c m	kg	歳	
1	太田 敦也	C	206	112	34	三遠ネオフェニックス
2	竹内 譲次	P F	207	98	33	アルバルク東京
3	ファジーカス ニック	C	210	111	32	川崎ブレイブサンダース
4	古川 孝敏	S G	190	92	30	琉球ゴールデンキングス
5	橋本 竜馬	P G	178	81	30	シーホース三河
6	篠山 竜青	P G	178	78	29	川崎ブレイブサンダース

7	辻 直人	S G	185	82	28	川崎ブレイブサンダース
8	比江島 慎	P G	190	88	27	シーホース三河
9	熊谷 尚也	S F	195	90	27	大阪エヴェッサ
10	宇都 直輝	P G	190	77	26	富山グラウジーズ
11	永吉 佑也	P F	198	115	26	京都ハンナリーズ
12	田中 大貴	S G	192	93	26	アルバルク東京
13	西川 貴之	S G	196	88	26	シーホース三河
14	張本 天傑	S F	197	102	26	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ
15	富樫 勇樹	P G	167	65	24	千葉ジェッツ
16	ベンドラメ 礼生	P G	183	80	24	サンロッカーズ渋谷
17	渡邊 健太	S F	203	89	23	(ジョージ・ワシントン大学出身)
18	馬場 雄大	S F	198	90	22	アルバルク東京
19	玉木 祥護	P F	195	97	21	筑波大学
20	平岩 玄	C	199	103	20	東海大学
21	シェーファー アヴィ 幸樹	C	205	107	20	ジョージア工科大学
22	八村 塁	S F	203	102	20	ゴンザガ大学
23	テープス 海	P G	188	83	19	ノースカロライナ大学ウィルミントン校
24	田中 力	S F	187	78	16	I M G アカデミー
	平 均		193.3	91.7	25.4	

PG ポイントガード、SG シューティングガード、SF スモールフォワード、PF パワーフォワード、C センター

□ 第3ウィンドウ前の強化試合日程

第3ウィンドウ前に、第3ウィンドウの勝利に向けて、韓国代表チーム（世界ランク31位）を東京・宮城に迎え、強化試合を行う。

韓国代表チームは、第2ウィンドウをグループAでニュージーランドと1勝1敗、中国に1敗、香港に1勝であり、2勝2敗の3位で本戦への進出を確実にしている。

東京大会

日時：2018年6月15日(金) TIPOFF：19時30分予定

会場：大田区総合体育館(所在地：〒144-0031 東京都大田区東蒲田 1-11-1)

宮城大会

日時：2018年6月17日(日) TIPOFF：13時30分予定

会場：ゼビオアリーナ仙台(所在地：〒982-0007 仙台市太白区あすと長町 1-4-10)

□ 第3ウィンドウ：日本の日程

[ホーム] 2018年6月29日(金) vs オーストラリア（世界ランク10位）
会場は千葉ポートアリーナ(千葉市)

[アウェー] 2018年7月02日(月) vs チャイニーズ・タイペイ

Wリーグ 2017~18 シーズン結果

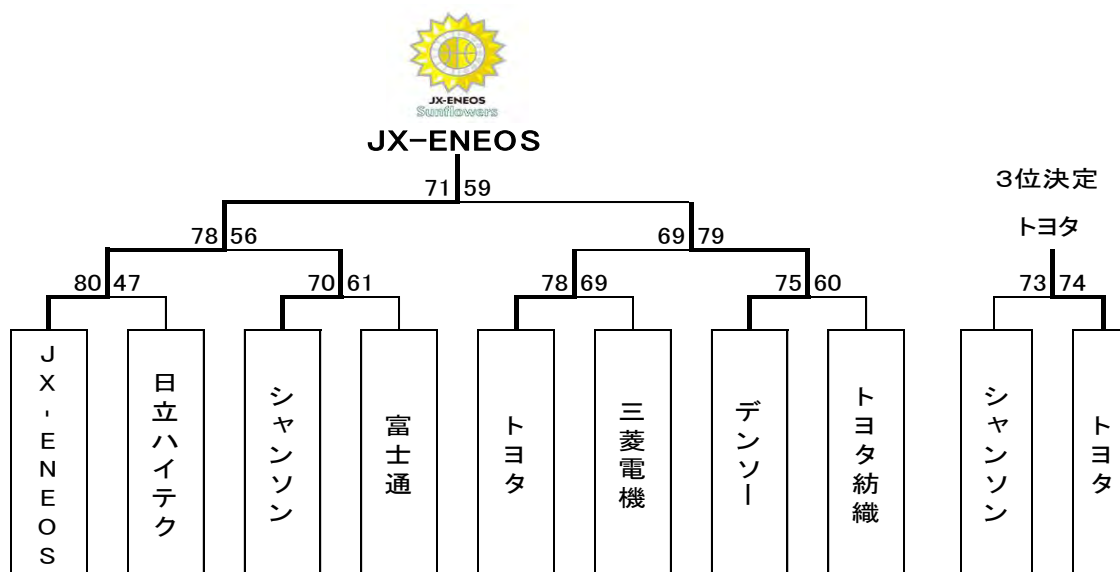
[編集部]

Wリーグは、3月25日のプレーオフファイナルを持って 2017~18 シーズンを終えている。今シーズンも上位チームと下位チームの差が目立ち、レギュラーシーズンにおいてトップを走ったJX-ENEOSの強さに対して、最下位チームは1勝もできなかった。レギュラーシーズンは、昨シーズンと若干異なりすべてのチームが総当たり3回戦となったが、クォーターファイナルへ進出した8チームの顔ぶれは、昨年と同様であった。

レギュラーシーズン成績

順位	チ ャ ム 名	勝	負	勝率
1	J X - E N E O S サンフラワーズ	3 2	1	0.970
2	デンソーアイリス	2 6	7	0.788
3	トヨタ自動車アンテロープス	2 6	7	0.788
4	シャンソン化粧品シャンソンVマジック	2 2	1 1	0.667
5	富士通レッドウェーブ	2 2	1 1	0.667
6	三菱電機コアラーズ	1 9	1 4	0.576
7	トヨタ紡織サンシャインラビッツ	1 7	1 6	0.515
8	日立ハイテククーガーズ	1 3	2 0	0.394
9	アイシン・AW・ウィングス	9	2 4	0.273
1 0	東京羽田ヴィッキーズ	9	2 4	0.273
1 1	山梨クインビーズ	3	3 0	0.091
1 2	新潟アルビレックスBBラビッツ	0	3 3	0.000

プレーオフ成績



J X-E N E O S の強さは、今シーズンも際立っていた。レギュラーシーズンで 33 ゲーム戦って、負けが 1 ゲームのみという成績には敬意を表するに十分である。リーグ 10 連覇という成績は、女子において選手の入替わりなどを考慮すると、チームとしてこれだけの成績を持続することはなかなか難しいことであるからだ。

優秀な選手が揃っているからと言えそうだが、以下に掲げる個人成績を見ると、J X-E N E O S の選手が全て上位にいるわけではなく、攻撃力とチームワークがずば抜けていることが理解できる。



個人成績

プレーオフ MVP 吉田 亜沙美 (J X-E N E O S) 3 年連続 5 回目
レギュラーシーズン MVP 渡嘉敷 来夢 (J X-E N E O S) 4 年連続 5 回目
ベスト 5

ポジション	氏 名	チーム	回数等
ガード	町田 瑠唯	富士通 #10	3 年ぶり 2 回目
ガードフォワード	本川 沙奈生	シャンソン化粧品 #6	4 年連続 4 回目
フォワード	宮澤 夕貴	J X-E N E O S #52	2 年連続 3 回目
センターフォワード	渡嘉敷 来夢	J X-E N E O S #10	6 年連続 7 回目
センター	高田 真希	デンソー #8	2 年連続 6 回目

各部門個人成績

得点

順位	氏 名	チーム	平均
1	渡嘉敷 来夢	J X-E N E O S #10	18.39
2	高田 真希	デンソー #8	18.35
3	本川 沙奈生	シャンソン化粧品 #6	17.36
4	河村 美幸	シャンソン化粧品 #22	15.58
5	長部 沙梨	トヨタ紡織 #33	14.37

アシスト

順位	氏 名	チーム	平均
1	町田 瑠唯	富士通 #10	8.76
2	吉田 亜沙美	J X-E N E O S #0	7.06
3	落合 里泉	シャンソン化粧品 #28	6.63
4	本川 沙奈生	シャンソン化粧品 #6	6.06
5	稲井 亜弥	三菱電機 #45	5.27

リバウンド

順位	氏 名	チーム	平均
1	高田 真希	デンソー #8	11.16
2	赤穂 さくら	デンソー #12	9.48
3	大崎 佑圭	J X－E N E O S #21	8.58
4	渡嘉敷 来夢	J X－E N E O S #10	8.24
5	王 新朝喜	三菱電機 #24	7.03

ブロックショット

順位	氏 名	チーム	平均
1	渡嘉敷 来夢	J X－E N E O S #10	1.97
2	松本 咲	日立ハイテク #22	1.61
3	河村 美幸	シャンソン化粧品 #22	1.42
4	白 慶花	アイシンAW #12	1.42
5	宮澤 夕貴	J X－E N E O S #52	1.12

フィールドゴール成功率

順位	氏 名	チーム	平均%
1	渡嘉敷 来夢	J X－E N E O S #10	69.41
2	高田 真希	デンソー #8	59.61
3	河村 美幸	シャンソン化粧品 #22	55.98
4	赤穂 さくら	デンソー #12	55.17
5	大崎 佑圭	J X－E N E O S #21	55.06

3ポイントシュート成功率

順位	氏 名	チーム	平均%
1	宮澤 夕貴	J X－E N E O S #52	47.10
2	山本 千夏	富士通 #15	44.74
3	山中 美佳	トヨタ紡織 #15	43.16
4	三好 南穂	トヨタ自動車 #12	41.03
4	高田 汐織	富士通 #31	41.03

フリースロー成功率

順位	氏 名	チーム	平均%
1	森本 由樹	東京羽田 #11	88.89
2	馬瓜 エプソン	トヨタ自動車 #0	87.77
3	本川 沙奈生	シャンソン化粧品 #6	85.84
4	畠中 絵里	トヨタ紡織 #13	85.19
4	三好 南穂	トヨタ自動車 #12	84.51

「AKATSUKI FIVE」 女子日本代表WCへの道のり

FIBA 女子ワールドカップ 2018 の代表候補選手と予選リーグ日程

[編集部]

FIBA 女子バスケットボールワールドカップは 2018 年 9 月 22 日から 30 日までスペインで開催される。その出場チームは、オリンピック優勝国、開催地、および各地区代表の下記 16 チームである。

出場チーム

オリンピック優勝	USA				
開催地	スペイン	ヨーロッパ地区で優勝			
	1位	2位	3位	4位	5位
ヨーロッパ地区	フランス	ベルギー	ギリシャ	トルコ	ラトビア
アジア地区	日本	オーストラリア	中国	韓国	
アメリカ地区	カナダ	アルゼンチン	プエルトリコ		
アフリカ地区	ナイジェリア	セネガル	アフリカ地区優勝はチュニジア		

出場の 16 チームは、下記の 4 グループに分けられ、予選リーグを行う。
決勝トーナメントには、各グループの上位 3 チームが出場できる。

出場チームのグループ分け

下段は世界ランク

グループ A	韓国	フランス	ギリシャ	カナダ
	16位	3位	20位	5位
グループ B	オーストラリア	ナイジェリア	トルコ	アルゼンチン
	4位	34位	7位	15位
グループ C	日本	スペイン	プエルトリコ	ベルギー
	13位	2位	22位	28位
グループ D	ラトビア	中国	USA	セネガル
	26位	10位	1位	17位

□ 「AKATSUKI FIVE」女子日本代表メンバー

5月30日、ヘッドコーチをトム・ホーバスとするスタッフとともに日本代表候補選手が発表された。

代表選手は若手を中心としたメンバーで、第4次強化合宿から参加している。

<「AKATSUKI FIVE」選手>

*年齢・所属は2018年5月26日現在

NO	選手名	P	身長	体重	年齢	所 属
			c m	kg	歳	
24	藤高 三佳	S G	176	68	29	トヨタ自動車アンテロープス
8	高田 真希	P F	183	76	28	デンソーアイリス
7	水島 沙紀	S G	171	59	27	トヨタ自動車アンテロープス
10	渡嘉敷 来夢	P F	193	85	26	J X-E N E O S サンフラワーズ
13	町田 瑠唯	P G	162	57	25	富士通レッドウェーブ
52	宮澤 夕貴	S F	182	70	24	J X-E N E O S サンフラワーズ
15	本橋 菜子	P G	164	55	24	東京羽田ヴィッキーズ
17	三好 南穂	P G	167	60	24	トヨタ自動車アンテロープス
0	長岡 萌映子	S F	182	75	24	トヨタ自動車アンテロープス
1	藤岡 麻菜美	P G	170	60	24	J X-E N E O S サンフラワーズ
22	河村 美幸	P F	185	76	23	シャンソン化粧品 シャンソンVマジック
41	根本 葉瑠乃	S G	175	67	23	三菱電機コアラーズ
30	馬瓜 エブリン	S F	180	79	22	トヨタ自動車アンテロープス
39	赤穂 さくら	C	183	77	22	デンソーアイリス
88	赤穂 ひまわり	S G	184	71	19	デンソーアイリス
99	オコエ 桃仁花	S F	181	72	19	デンソーアイリス
	平 均		177.4	69.2	23.9	

PG ポイントガード、SG シューティングガード、SF スモールフォワード、PF パワーフォワード、C センター

最初の対戦相手は9月のワールドカップに向けた下記「三井不動産カップ」東京大会のチャイニーズ・タイペイ（世界ランク40位）で、この国際強化試合は6月8日に東京都立川市で行われ、日本代表は96-66で勝利している。

体調不良の渡嘉敷選手を除く選手15名が参加した。前半は、身長差がない相手に確実にシュートを決めて大量得点を重ねたが、後半は相手の激しいディフェンスにてこずったかシュートが決まらず、相手より低い得点に終わったのが気にかかる。

しかし、馬瓜選手の3ポイントシュート攻勢は見事であり、その他の若手選手が張り切ったプレイを見せており、来る8月のカナダ（世界ランク5位）との対戦が楽しみである。

応援のし甲斐があるというもの。皆様と盛大に応援しましょう。

□ 女子日本代表「国際強化試合 2018 三井不動産カップ」

日本協会は、9月のワールドカップに向け、6月（8日に開催済み）にチャイニーズ・タイペイと東京で、8月にカナダを相手に新潟と群馬で、国際強化試合を実施すると発表している。

東京大会（開催済み）

日時：2018(H30)年6月8日(金)

会場：アリーナ立川立飛（所在地：東京都立川市泉町 500-4）

対戦カード：日本代表チーム vs チャイニーズ・タイペイ代表チーム

	1P	2P	3P	4P	計
日本	28	29	16	23	96
チャイニーズ・タイペイ	11	10	17	28	66

新潟大会

日時：2018(H30)年8月5日(日) ＊試合開始時間：調整中

会場：アオーレ長岡（所在地：新潟県長岡市大手通 1-4-10）

対戦カード：日本代表チーム vs カナダ代表チーム 5 位

群馬大会

日時：2018(H30)年8月7日(火) ＊試合開始時間：調整中

会場：高崎アリーナ（所在地：群馬県高崎市下和田町 4-1-18）

対戦カード：日本代表チーム vs カナダ代表チーム

□ WC 予選リーグ

予選リーグは9月22日から25日までであり、各グループの上位3チームが決勝トーナメントに進出する。

日本はCグループに属し、対戦相手はグループ分け表のとおりである。

日本の予選リーグ日程

9月22日（土） VS スペイン（ヨーロッパ地区で優勝）

9月23日（日） VS ベルギー（ヨーロッパ地区で3位）

9月25日（火） VS プエルトリコ（アメリカ地区で3位）

日本は世界ランクで13位であり、今回の各地区大会で3位となった強豪と対戦する。スペインに及ばなくとも、ベルギー、プエルトリコには勝利したいもの。

□ WC 決勝トーナメント

グループCの2位・3位それぞれは、翌日26日からの第1戦（ベスト8決定戦）に参加して、グループDの3位・2位それぞれと対戦する。対戦相手は、グループDに属する、USA、中国、セネガル、およびラトビアの4チームの内のどこかである。

勝利してベスト8に残れば、グループA・B何れかの1位と準々決勝を戦う。

[総務部]

当NPO法人日本バスケットボール振興会は、この度、一般財団法人企業価値協会から企業価値認定され、2018年度上期企業価値認定証を授与された。



一般財団法人企業価値協会は、中小企業庁の後援と協賛のもと、5年前から全国のユニークな中小企業を対象にしてその価値の掘り起こしと、メディアへの露出によるその拡散、更なる価値の進化をテーマに、毎年2回企業価値認定を実施している。

今般、当会がバスケットボール界におけるこれ迄の地道な取り組み（企業価値）を広く世間に知って貰うため企業価値協会に価値認定申

請したところ、それが認められて本年2月5日の認定式で渡辺理事長が当該認定証を受けた。

(日刊工業新聞 平成30年2月12日号 下記参照)



認定証を授与される渡邊理事長(左)



元中小企業庁長官で東京中小企業投資育成株式会社社長望月晴文氏の来賓挨拶によれば、これ迄にも非営利組織が企業価値認定を受けることはあったが、スポーツ関係では今回が初めてとのこと。(バスケットの桑田健秀氏を理事長とするNPO法人ピボットフットも今回同時に認定されている。)

本件はメディアを通じて当会の取り組み姿勢を広くバスケットボール関係者に知って頂く良い機会であり、我々はこれを契機に、今後、更なる価値の進化への取り組みに努めて参りたい。

訃 報

乙部 功 氏 平成30年4月26日 享年 95
関根 正司 氏 平成30年5月17日 享年 86

長年にわたり、振興会会員として、日本バスケットボール界発展のため多大のご尽力を賜りました。

ここに、謹んで哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

乙部 功さんを偲んで

小澤 正博



乙部 功さんが亡くなりました。数年前に本誌「人物抄」に登壇いただくため、お住まいの葉山へ伺った際は大変お元気でおられましたのに大変残念です。

乙部さんは、現役時代気象庁に勤務されていましたが、戦後まもなく復活した関東実業団連盟にチームが加入してすぐに役員として活躍されるようになりました。

バスケットの方では競技役員としてのご活躍でしたが、どちらかというと縁の下の力持ち的存在で、あまり表に出たがらない性格で温かな方でした。

振興会の前身であった、実業団協力会に創設当初からお入りになり、振興会に代わってからも地味な仕事をされておられました。カメラが好きだったようで、総会や講演会の様子を上手に撮影され、数年にわたって本バスケットボールプラザの作成にご協力いただきました。

乙部さんはその性格ゆえか、写真を撮影された後、ネガと（当時はフィルム式カメラだった）最小限の焼き付け写真をご自分の負担で作成され、事務所へ届けてくれていました。

「お勧めの映像は」と尋ねると、いつも「俺は編集のことは判らないから適当に使ってもらっていいですよ」との返事が返ってきました。

晩年、秋の交流会に出席された折、「お元気で何よりです」と声をかけると、「最近は忘れっぽくなって困っているんだよ」と笑っておられた姿が印象的でした。

乙部さんもバスケットボールに対して情熱を傾けた方で、1964年東京オリンピックでは競技役員として活躍され、若いころに関東実業団の試合会場でもあった代々木第二体育館に、その頃小学生だったご子息を連れてこられたこともありました。

4年前、本誌人物抄に登壇される際も、「俺はバスケットの方では話すこともないから」と遠慮され、「気象庁におられた時の話を伺わせて下さい」と頼み込んでお会いした時のことが今でも脳裏に焼き付いています。乙部さんごゆっくりとお休みください。 合掌

関根 正司さんを偲ぶ

黒川 敏雄



関根正司さんの訃報を聞き、また一人朋友を失い大変寂しく思っております。関根さんとは実業団連盟の役員として、昭和30年(1955)からのお付き合いでした。当時、日航整備チーム(現日本航空)の代表として関東実連に参加され、お互い競技委員として関東実連の仕事に励んだものです。

当時の委員会の様子は本誌にも掲載されたので省きますが、笹岡太一委員長を先頭に男女10名程度の委員で構成され、とても纏まった仲間たちで、後年役員を引退してからも毎年「笹岡競技委員会」なるものを開催してきました。

しかし、高齢化とともに一人また一人と欠けるようになって今年は6月に予定したものの参加者6名程度となり、関根さんを偲ぶ会となりそうです。

関根さんは、関東実連や日本実連の理事を歴任され、その間、日本協会の理事、競技委員長として活躍するとともに、最後は当時諸問題を抱えた日本実連の理事長としてリーダーシップを発揮されました。

昭和39年(1964)開催の東京オリンピックでは、施設委員として活躍、平成8年(1996)には日本協会功労者表彰を受賞するなど、バスケットボールの普及発展に多大な功績を残されました。

振興会では、前身の実業団協力会発足当初から加入されて理事を務められ、その後も多くの方の信望を集め、会の運営にも寄与されました。

近年は自宅で転倒して骨折され、入退院を繰り返しておられた様子、外出もままならなくなり、晩年は病気との闘いだったと聞いております。

これからはごゆっくりとお休みください。

合掌

事務局だより

◇ 平成30年度会費納入のお願い

今年度の会費納入をお願いいたします。

振興会は会員の皆さんの会費によって運営されておりますので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

振込み口座番号

ゆうちょ銀行

00100-3-316035

特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

三菱UFJ銀行

神保町支店

普通預金口座 1684743

特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

みずほ銀行

丸の内中央支店

普通預金口座 1004687

特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

◇ 振興会保管の月刊バスケットボール誌が大学図書館へ

振興会で保管されていた創刊号からの「月刊バスケットボール」誌が、このほど流通経済大学（R K U）に寄贈された。流通経済大学では小谷教授が開設したR K U B A S K E T B L L L A B（バスラボ）小谷ゼミの学生たちが、これら古い冊子を整理したうえで龍ヶ崎キャンパスR K U図書館に搬入した。これからは、R K U図書館で全ての「月刊バスケットボール」誌を読むことができる。



◇ 故人からの寄贈

上記「月刊バスケットボール」誌は故日比野 明さんが長年にわたって保存されていた冊子であり、当振興会には保存されていたその他のバスケット関連資料・冊子も多数寄贈されている。

プラザ こぼればなし

- ◇ Wリーグ 2017～2018 シーズンにおいて、上位チームと下位チームの戦力差が目立った。
すなわち上位3チームの勝率80%以上に対して、下位チームの勝率は12%以下で、最下位チームは勝率ゼロであった。元日本代表で大活躍したトヨタ自動車の大神選手が今シーズンで引退したが、こうした選手が下位チームへ移籍すれば、まだ十分戦力として通用するであろう。下位チームの戦力UPのため、優秀な選手はもうひと踏み張り頑張ってもらいたいもの。
また、クラブ方式の運営で頑張っているチームに対して、WJBLが何らかの形で支援する策はないものだろうか。
- ◇ 5月17日の当会定例総会とその後の交流会で、会員増の話題が切実な課題として提議されていた。役員が先頭に立って取り組む重要問題ではあるが、会員の皆様にも勧誘方策のご提案をお願いしたい。地方会員の勧誘のため、各地方における試合結果などの情報をプラザに掲載したいと企画中だがどうであろうか。衆知を集めたいので情報の提供などご協力をよろしく。
- ◇ バスケットボール競技は試合時間40分のクォーター制であるが、日本のルールブックでは「ピリオド」と呼称し、試合等で「1P」～「4P」を使用している。他方、シュート得点の2点・3点に対して、スタッツなどで「2P」・「3P」が用いられており、表記する際に紛らわしい。
メディアでは、これらを「Q1」～「Q4」、「2pt」・「3pt」と区別して表記しているところも多い。
本誌は、各ピリオドに対して日本のルールブックに従い、「1P」～「4P」を使用しているが、JBA、WJBLは「1st」～「4th」、Bリーグは「1Q」～「4Q」と表現している。
JBA、メディアを含めて統一した表記になればよいと思われるがいかが。

NPO法人

日本バスケットボール振興会

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町1-40

豊明ビル 301号室

電話／FAX (03) 3219-9311

メール sinkokai@jbbs.jp
